モデルコア高専5		一般教育		開講年度	平成29年度 (2017年度)

学科到達目標

2015ippann

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																担当教員	履修上の区分
						1年				2年				3年				4年				5年					
						前		後		前		後		前		後		前		後		前		後			
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
		テスト科目1855	0002		0	――――――

一般	必修	総合英語	0170	履修単位	4								4	4											
一般	必修	哲学	0043	履修単位	1												1	1							
一般	必修	法学	0044	履修単位	1												2								
一般	必修	経済学	0045	履修単位	1													2							
一般	必修	保健･体育	0046	学修単位	1												0.5	0.5							
一般	必修	総合英語	0047	学修単位	3												1.5	1.5							
一般	必修	ドイツ語	0048	学修単位	2												1	1							
専門	必修	国語（4年）	0042	学修単位	1												0.5	0.5						豊田 尚子	
一般	必修	保健･体育	0041	学修単位	1																0.5	0.5			
一般	必修	総合英語	0042	学修単位	1																0.5	0.5			
一般	必修	ドイツ語	0043	学修単位	1																0.5	0.5			

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	テスト科目1855

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	/
授業形態		単位の種別と単位数	: 0
開設学科	一般教育	対象学年	0
開設期		週時間数	0
教科書/教材			
担当教員	shiba ta		

到達目標

テスト科目1855(2015)

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1			
評価項目2			
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	
授業の進め方・方法	
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史１

科目基礎情報

科目番号	0010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	高校日本史（山川出版社　81山川　日B308）、新詳高等地図（帝国書院、046帝国　地図302）		
担当教員			

到達目標

1. 日本の歴史が、現在の日本国の地域のみならず、古くは東アジア、近代以降は世界の動向と密接に関わるなかで形成されてきたことを学び、国際社会の一員として、諸問題の解決に向けて、歴史的背景を踏まえて多面的に考察するための基礎を身につける。
2. 提出物を期限内に仕上げて提出するスケジュール能力を身につける。
3. 授業に集中し、必要な知識を身につけることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	日本史の概略をよく理解し、主要な事項について、興味や関心を抱いて、原因や結果に至るまで説明できる。	日本史の流れの概略を理解し、主要な事項について説明できる。	日本史の流れの概略を理解できない。
評価項目2	提出物をきちんと仕上げて期限内に提出することができる。	提出物を期限内に提出することができる。	提出物が期限内に提出できない。
評価項目3	小テストの内容をよく理解して、発展問題を自分で作成することができる。	小テストの内容を理解し、類似問題を解くことができる。	小テストの内容を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	朝廷を中心とした古代の律令国家、幕府を中心とした中世の封建社会、欧米の近代国家の制度を取り入れて中央集権化を進めた明治時代を中心に、日本史を概観する。
授業の進め方・方法	授業は講義形式を中心とする。 小テストをしっかり復習すること。
注意点	・日頃から新聞やニュースに目を通し、現在、日本や世界で起こっていることについて、広い関心を持つこと。 ・身近なところに地図帳をおき、ニュースに登場する地名を確かめて、頭の中に日本や世界の地図を作ること。 ・ノートをとる際には、黒板を書き写すだけでなく、気づいたことや説明などのメモを加え、後から振り返ったときに役に立つ独自のノートを目指すこと。 ・漢字を楷書で書けるように練習すること。 ・成績評価は評価割合に準拠するが、授業中の居眠りなどが甚だしい場合には、減点することもある。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	歴史学とは何かについて、大まかなイメージを持つ。 ノートの取り方の一例を身につける。
		2週	律令国家の成立	律令国家の成立について、中国や朝鮮半島との関わりも含めて説明できる。
		3週	奈良時代	天皇を中心とした朝廷の制度と、国家仏教について説明できる。
		4週	平安時代	藤原氏の摂関政治と国風文化について説明できる。
		5週	武士の誕生	院政と武士勢力の台頭について説明できる。
		6週	平氏と源氏	武士政権の誕生と源平の争いについて説明できる。
		7週	鎌倉幕府	鎌倉幕府の根幹を支える制度としての守護と地頭について説明できる。 封建制度の概念について説明できる。
		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。
	2ndQ	9週	試験返却・解答 仏教の変遷	奈良時代の国家仏教や平安時代の天台宗・真言宗から、鎌倉新仏教の成立まで、仏教の変遷を時代背景とあわせて説明できる。
		10週	室町時代	蒙古襲来による鎌倉幕府の崩壊から、南北朝時代を経て室町幕府が成立したこと、さらに下克上の時代が始まり、戦国時代にいたる流れを説明できる。
		11週	江戸時代	幕藩体制と江戸時代の外交関係、当時の欧米諸国の世界進出について説明できる。
		12週	ペリー来航	ロシアの開国要求と江戸幕府の対応について、19世紀アメリカの砲艦外交と日米修好通商条約について説明できる。
		13週	開国の影響	開国後の日本経済の混乱と、政治的な動揺に対する幕府の対応（安政五年の政変）、その失敗について説明できる。
		14週	攘夷から倒幕へ	反幕府派の諸藩が攘夷から倒幕へと考え方を変えたこと、薩長同盟と徳川慶喜の大政奉還について説明できる。
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。
		16週	試験返却・解答 明治維新と戊辰戦争	明治政府の中央集権化政策について説明できる。
後期	3rdQ	1週	徴兵令と四民平等	近代的軍隊の創設のために、法的に平等な国民の創出が必要だったことが説明できる。

		2週	富国強兵	政府の財源確保のための地租改正と殖産工業政策について説明できる。
		3週	文明開化	廃仏毀釈と啓蒙思想の導入、明治政府の教育政策について説明できる。
		4週	岩倉使節団と征韓論	岩倉使節団と条約改正問題、征韓論と明治六年の政変、その後の朝鮮・清国・琉球との関係の変化を説明できる。
		5週	士族反乱の鎮圧	明治維新に対する農民や士族の不満によって反乱が起こったこと、鎮圧後は反政府活動が武力反乱から言論による闘争に移ったことを説明できる。
		6週	自由民権運動・憲法制定・国会開設	大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点、制限選挙がもたらした結果について説明できる。
		7週	東アジアの国際環境	欧米列強の帝国主義政策による植民地獲得競争について説明できる。 朝鮮半島をめぐる日清間の緊張と脱亜論について説明できる。
		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。
	4thQ	9週	試験返却・解答 日清戦争	日清戦争の原因と結果、三国干渉の影響について説明できる。
		10週	日清戦争後の政治	政党内閣の出現、政治に影響を持った元老と官僚について説明できる。
		11週	ロシアとの戦い	列強の清国進出と北清事変、日英同盟から日露戦争にかけての経緯について説明できる。
		12週	日露戦争の影響	日本に対する列強の警戒とアジア諸国の日本への期待と失望について説明できる。
		13週	日韓併合と満州への進出	韓国と満州での日本の植民地支配について説明できる。
		14週	第一次世界大戦	大戦の勃発と日本の参戦について説明できる。
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。
		16週	試験返却・解答	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎数学１

科目基礎情報

科目番号	0011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	前期	週時間数	4
教科書/教材	矢野，石原： 基礎の数学　改訂版，裳華房 / 矢野，石原： 問題集　基礎の数学，裳華房		
担当教員			

到達目標

1. 整式に関する基本的な問題を解くことができる。
2. 分数式に関する基本的な問題を解くことができる。
3. 無理式に関する基本的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	整式に関する応用的な問題を解くことができる。	整式に関する基本的な問題を解くことができる。	整式に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	分数式に関する応用的な問題を解くことができる。	分数式に関する基本的な問題を解くことができる。	分数式に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目3	無理式に関する応用的な問題を解くことができる。	無理式に関する基本的な問題を解くことができる。	無理式に関する基本的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	整式・分数式・無理式の扱いについて学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。
注意点	基礎数学1は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。
		2週	整式の加減乗	整式の加法・減法・乗法の計算ができる。
		3週	展開公式	乗法展開公式を利用して整式の展開ができる。
		4週	因数分解の公式	因数分解の公式を利用して因数分解ができる。
		5週	整式の除法	整式の除法の計算ができる。
		6週	因数定理	因数定理を利用した因数分解ができる。
		7週	恒等式	恒等式の基本的な問題を解くことができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	試験返却・解答 実数	実数・絶対値の意味を理解し、絶対値の基本的な計算ができる。
		10週	分数式の約分と乗除	分数式の約分と乗除の計算ができる。
		11週	分数式の通分と加減	分数式の通分と加減の計算ができる。
		12週	繁分数式	繁分数式を簡単にすることができる。
		13週	平方根の計算	平方根の基本的な計算ができる。
		14週	分母の有理化	分母の有理化ができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎数学２

科目基礎情報

科目番号	0012	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	4
教科書/教材	矢野，石原： 基礎の数学　改訂版，裳華房 / 矢野，石原： 問題集　基礎の数学，裳華房		
担当教員			

到達目標

1. １次及び２次の方程式・不等式に関する基本的な問題を解くことができる。
2. 高次方程式や分数・無理方程式に関する基本的な問題を解くことができる。
3. ２次関数に関する基本的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	１次及び２次の方程式・不等式に関する応用的な問題を解くことができる。	１次及び２次の方程式・不等式に関する基本的な問題を解くことができる。	１次及び２次の方程式・不等式に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	高次方程式や分数・無理方程式に関する応用的な問題を解くことができる。	高次方程式や分数・無理方程式に関する基本的な問題を解くことができる。	高次方程式や分数・無理方程式に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目3	２次関数に関する応用的な問題を解くことができる。	２次関数に関する基本的な問題を解くことができる。	２次関数に関する基本的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	方程式や不等式に関する基本的な事項と、2次関数のグラフやその簡単な応用について学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。
注意点	基礎数学２は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	２次方程式の解の公式	解の公式を利用して２次方程式を解くことができる。
		2週	複素数の演算	複素数の四則演算ができる。
		3週	負数の平方根	負数の平方根に関する計算ができる。
		4週	高次方程式	因数分解を利用して、基本的な高次方程式を解くことができる。
		5週	連立方程式	基本的な連立方程式（１次と２次）を解くことができる。
		6週	無理方程式と分数方程式	基本的な無理方程式・分数方程式を解くことができる。
		7週	１次不等式	基本的な１次不等式を解くことができる。 １元連立１次不等式を解くことができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却・解答 ２次不等式（１）	実数の範囲で異なる因数に分解できる型の２次不等式を解くことができる。
		10週	２次不等式（２）	実数の範囲で異なる因数に分解できない型の２次不等式を解くことができる。
		11週	２次関数のグラフ	２次関数のグラフをかくことができる。
		12週	２次関数の最大値と最小値	グラフを利用して、２次関数の最大値．最小値を求めることができる。
		13週	２次関数のグラフと直線の位置関係	２次関数のグラフと直線の位置関係を連立方程式の解との関係で捉えることができる。
		14週	２次関数のグラフの方程式・不等式への応用	2次方程式と２次不等式への基本的な応用ができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	基礎数学３

科目基礎情報

科目番号	0013	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	矢野，石原： 基礎の数学　改訂版，裳華房 / 矢野，石原： 問題集　基礎の数学，裳華房		
担当教員			

到達目標

1. 三角比に関する基本的な問題を解くことができる。
2. 三角関数に関する基本的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	三角比に関する応用的な問題を解くことができる。	三角比に関する基本的な問題を解くことができる。	三角比に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	三角関数に関する応用的な問題を解くことができる。	三角関数に関する基本的な問題を解くことができる。	三角関数に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	三角比と三角関数に関する基本事項を学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。
注意点	基礎数学3は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。
		2週	三角比の定義	三角比の定義を理解し、三平方の定理を利用して直角三角形の頂角の三角比の計算ができる。
		3週	三角比の近似値	三角関数表を用いて鋭角の三角比の近似値を求めることができる。
		4週	鈍角の三角比	鈍角の三角比を求めることができる。
		5週	三角比の相互関係	各種の三角比の相互関係について知る。
		6週	正弦定理	正弦定理を用いた三角形への簡単な応用ができる。
		7週	余弦定理	余弦定理を用いた三角形への簡単な応用ができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	試験返却・解答 一般角	一般角の定義を知る。
		10週	弧度法	角を弧度法で表現することができる。
		11週	三角関数の定義	三角関数の定義を知る。
		12週	三角関数と三角比	三角関数が三角比の一般化になっていることを知る。
		13週	三角関数の値	一般角の三角関数の値を求めることができる。
		14週	三角関数の基本公式	三角関数の基本公式を知る。
		15週	前期期末試験解説	
		16週		
後期	3rdQ	1週	三角関数の相互関係	三角関数の相互関係に関する公式を用いて、三角関数の値の計算ができる。
		2週	三角関数を含む式の計算	三角関数の基本公式を用いて、三角関数を含む式の計算ができる。
		3週	三角関数の周期性	三角関数の周期性について知る。
		4週	三角関数のグラフ（１）	三角関数のグラフの基本形をかくことができる。
		5週	三角関数のグラフ（２）	伸縮と平行移動された三角関数のグラフをかくことができる。
		6週	三角関数のグラフの応用	三角関数のグラフを利用して、簡単な三角方程式を解くことができる。
		7週	中間試験	
		8週	試験返却・解答 加法定理	三角関数の加法定理について知る。
	4thQ	9週	加法定理の応用（１）	加法定理を用いて三角関数の値の計算ができる。
		10週	加法定理の応用（２）	加法定理からいろいろな公式が導出されることを知る。
		11週	2倍角・半角の公式	2倍角・半角の公式を使うことができる。
		12週	三角関数の合成	三角関数の合成をすることができる。
		13週	三角方程式	三角関数を含む基本的な方程式を解くことができる。
		14週	三角不等式	三角関数を含む基本的な不等式を解くことができる。
		15週	期末試験	

		16週	試験返却・解答	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理１

科目基礎情報

科目番号	0014	科目区分	一般 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	大日本図書　柴田、勝山、他著　初歩から学ぶ基礎物理学　力学Ｉ／　数研出版　数研出版編集部編　新課程 リードα物理基礎・物理		
担当教員			

到達目標

　物理学の学習を通じて、自然現象を系統的、論理的に考えていく能力を養い、広く自然の諸現象を科学的に解明するための物理的な見方、考え方を身につけること。さらに、物理学は科学技術を学ぶための極めて重要な基礎であり、多くの分野において科学技術の発展に欠かせない知識であることを認識すること。以上を基本目標とする。
　物理１では、(1)物体の運動に関する様々な現象を、物理法則と関連づけて考えることができる、(2)物体の運動に関する基礎的な計算をすることができる、ことを目標とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	物理学の理論に沿って自然現象を説明できる。	物理学の理論に沿って自然現象を考えることができる。	物理学の理論に沿って自然現象を考えることができない。
評価項目2	数式の意味を説明できる。	数式の意味を知っている。	数式の意味を知らない。
評価項目3	物理量を正しく求めることができる。	物理量の求め方を知っている。	物理量の求め方を知らない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	物体の運動に関する単元の中で等加速度運動、平面運動、力と運動、運動量保存則について学ぶ。ここでは、「力がつり合っている状態」や「運動方程式」など、自然現象を理解するだけでなく科学技術に応用する上で、極めて基礎的、かつ重要な内容が含まれている。物体の運動に関する基礎的な計算ができるようになることが目標である。
授業の進め方・方法	授業は、講義と演習、実験・実習から成る。自然を理解し、物理学における取り組み方を習得するために講義と演習が主となる。 　物理１の学習においては、演習への積極的な取り組みが推奨される。講義で学んだことに対する自身の理解度を、学習者が客観的に確認するための一つの目安となる。
注意点	・授業で課せられる演習問題や課題への解答の提出が求められる。演習問題の解答は満点を取るまで再提出のこと。 ・授業の内容はノートに書き留めておくこと。学んだことを確認するのに役立ちます。疑問があれば，自分で調べ，考えてみよう。解決できなければ、校友と討論したり、あるいは担当教員に質問してください。練習問題を数多く解くのも一つの学習方法です。日々の学習努力が求められます。 ・評価割合の項目別に、以下の評価が行われる。 「試験」は年間に4回実施される定期試験の成績である。 「態度」は授業への参加度に関する自己評価の成績である。 「ポートフォリオ」は演習解答、課題報告、実験報告の成績である。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	物理量の単位を使い分けることができる。 速さをSI単位で求めることができる。
		2週	等速直線運動(1)	時刻と位置の関係を表すことができる。
		3週	等速直線運動(2)	平均の速さと瞬間の速さの違いを述べることができる。
		4週	等速直線運動(3)	変位や速度を表すことができる。
		5週	等加速度直線運動(1)	加速度を求めることができる。
		6週	等加速度直線運動(2)	物体の位置や速度の計算ができる。
		7週	等加速度直線運動(3)	道のりなどを求めることができる。
		8週	前期中間試験	既習領域の基礎問題を解くことができる。
	2ndQ	9週	前期中間試験返却・解答 速度ベクトル(1)	平面内を移動する質点の運動を、位置の変化として表すことができる。 速度ベクトルを表現することができる。
		10週	速度ベクトル(2)	合成速度を求めることができる。
		11週	速度ベクトル(3)	相対速度を求めることができる。
		12週	落体の運動(1)	自由落下や鉛直投射に関する計算ができる。
		13週	落体の運動(2)	水平投射した物体の位置や速度に関する計算ができる。
		14週	落体の運動(3)	斜方投射した物体の位置や速度に関する計算ができる。
		15週	前期期末試験	既習領域の基礎問題を解くことができる。
		16週	前期期末試験返却・解答 力(1)	物体に作用する力を図示することができる。 合力を求めることができる。
後期	3rdQ	1週	力(2)	つりあいの状態にある力を求めることができる。
		2週	力(3)	作用と反作用の関係について、具体例を挙げて説明できる。 作用・反作用の関係とつりあいの関係を区別することができる。
		3週	実験(1)	測定データを適切に処理し、報告書を書くことができる
		4週	力の例(1)	重力、弾性力、張力を求めることができる。

		5週	力の例(2)	垂直抗力、静止摩擦力を求めることができる。
		6週	力の例(3)	最大摩擦力、動摩擦力を求めることができる。
		7週	実験(2)	力学に関する実験の報告書を書くことができる。
		8週	後期中間試験	既習領域の基礎問題を解くことができる。
	4thQ	9週	後期中間試験返却・解答 運動の法則(1)	運動の三法則について説明できる。
		10週	運動の法則(2)	力が作用する物体の運動について、運動方程式を立てて解くことができる。
		11週	運動の法則(3)	互いに力を及ぼしあう物体の運動について、運動方程式を立てて解くことができる。
		12週	運動量(1)	物体の質量と速度から運動量を求めることができる。 運動量の差が力積に等しいことに関する計算ができる。
		13週	運動量(2)	運動量保存則を用いて、2物体の衝突問題を解くことができる。
		14週	運動量(3)	反発係数を用いて、様々な衝突問題を解くことができる。
		15週	後期期末試験	既習領域の基礎問題を解くことができる。
		16週	後期期末試験返却・解答 演習(1)	既習領域の応用問題を解くことができる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	10	20	0	100
基礎的能力	70	0	0	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健体育１

科目基礎情報

科目番号	0015	科目区分	一般 / 必修
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	現代高等保健体育　大修館書店		
担当教員			

到達目標

1.日常的に自己の体調管理を行い、授業を受けるために必要なコンディションを維持することができる。また、担当教員や仲間と協力し、主体的かつ安全に活動を実行できる。
2.体力テスト、陸上競技及びマラソン大会の記録や順位により、自己の体力水準と課題を認識し、体力の維持増進を図れる。また、バレーボール及び陸上競技の基礎的技術を習得し、ルールを理解してゲームや記録測定を実行できる。
3.保健で取り上げられた各項目の基礎知識について説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	欠席、遅刻、早退および見学がほとんどなく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。	欠席、遅刻、早退および見学が少なく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。	欠席、遅刻、早退および見学が多い。または、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられる。
評価項目2	体力テスト、陸上競技及びマラソン大会において高いレベルの記録を出すことができる。バレーボール及び陸上競技の基礎的技術を習得でき、ルールを理解できる。	体力テスト、陸上競技及びマラソン大会の記録や順位がやや低くても、改善しようとする姿勢がみられる。バレーボール及び陸上競技の基礎的技術概ね習得でき、ルールを理解できる。	体力テスト、陸上競技及びマラソン大会の記録や順位が著しく低く、改善しようとする姿勢がみられない。または、バレーボール及び陸上競技の基礎的技術がほとんど習得できておらず、ルールも理解できていない。
評価項目3	「健康について」、「喫煙と飲酒」「医薬品と健康、薬物乱用とドーピング」「心肺蘇生法、日常的な応急手当」「人間と性、性感染症とエイズ」の5項目中4項目以上説明できる。	「健康について」、「喫煙と飲酒」「医薬品と健康、薬物乱用とドーピング」「心肺蘇生法、日常的な応急手当」「人間と性、性感染症とエイズ」の5項目中3項目以上説明できる。	「健康について」、「喫煙と飲酒」「医薬品と健康、薬物乱用とドーピング」「心肺蘇生法、日常的な応急手当」「人間と性、性感染症とエイズ」の5項目中3項目以上説明できない。または、飲酒、喫煙、薬物乱用のいずれかを行なった。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	体育実技と保健の講義を行う。 体育実技では、基礎体力の維持増進を図るとともに、各スポーツ競技を楽しむための基礎的技術の習得及びルールの理解を通してゲームや記録測定を行う。 保健の講義では、日常生活に関連した項目について学ぶ。
授業の進め方・方法	体育実技は、主にグランドや体育館にて行う。準備運動に続いて、その日の主要課題を行う。 保健の講義は、主にクラスルームにて行う。
注意点	·評価の50%は態度(出席状況及び授業態度)である。日常的に体調管理をしっかり行い、良い身体コンディションで授業に臨むこと。また、真面目に取り組むこと。 ·授業計画や評価方法は、天候等の事情により変更することがありうる。 ·実技の授業時には、運動に適した服装·シューズ及び着替えを準備すること。保健の授業時には、教科書を準備すること。 ·安全面に注意するとともに、体調不良時には、早めに担当教員に申し出ること。 ·日常的に規則正しい生活を心がけ、健康状態の維持及び体力の維持増進を図っておくこと。また、体育·スポーツ分野及び保健衛生分野に関する時事問題に関心を持ち、それらについて自分なりの考えを持っておくこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	授業のガイダンスと体力テスト（屋内種目）	自己の体力水準を認識できる。
		2週	体力テスト（屋外種目）	自己の体力水準を認識できる。
		3週	バレーボール（パスの練習）	アンダーハンドパス、オーバーハンドパスのコツをつかむ。
		4週	バレーボール（スパイクとサーブの練習）	スパイクとサーブの打ち方のコツをつかむ。
		5週	バレーボール（ルールの確認とゲームの実践①）	バレーボールのルールを理解する。
		6週	バレーボール（ゲームの実践②）	ゲームの中でサーブを確実にコートに入れることができる。
		7週	バレーボール（ゲームの実践③）	チームメイトと協力してラリーを続けることができる。
		8週	バレーボール（ゲームの実践④）	ラリー中にスパイクが打てる。
	2ndQ	9週	バレーボール（ゲームの実践⑤）	ブロックを含めたチームディフェンスができる。
		10週	バレーボール（ゲームの実践⑥）	ブロックを含めたチームディフェンスから攻撃を組み立てることができる。
		11週	球技種目選択（２種目）	種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。
		12週	球技種目選択（２種目）	種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。
		13週	球技種目選択（２種目）	種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。
		14週	球技種目選択（２種目）	種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。

		15週	前期総括	前期の反省点を確認し、後期に生かすイメージを持てる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	陸上競技(短距離走、ハードル走)	クラウチングスタートの注意点を説明できる。
		2週	陸上競技(ハードル走、持久走)	ハードル間を3歩のリズムで走ることができる。
		3週	陸上競技(砲丸投、持久走)	砲丸投の突き出し動作を実行できる。
		4週	陸上競技(砲丸投、持久走)	ペース配分を考えて持久走を実行できる。
		5週	陸上競技(走高跳)	跳躍方法ごとの踏切脚と助走方向の関係を説明できる。
		6週	陸上競技(走高跳)	リズム感のある助走から踏切を実行できる。
		7週	陸上競技(走幅跳)	跳躍角度を意識した踏切を実行できる。
		8週	マラソン大会コース下見	マラソン大会のコースをイメージできる。
	4thQ	9週	陸上競技(走幅跳)	跳躍角度を意識した踏切を実行できる。
		10週	保健(健康について)	健康のとらえ方の変遷について説明できる。
		11週	保健(喫煙と飲酒)	喫煙及び飲酒の人体への影響について説明できる。
		12週	保健(医薬品と健康、薬物乱用とドーピング)	医薬品の正しい使用法について説明できる。
		13週	保健(日常的な応急手当と心肺蘇生法、AED講習会)	心肺蘇生法の基本的な流れを理解し、AEDを正しく使用できる。
		14週	保健(人間と性、性感染症とエイズ)	エイズの感染経路を理解し、予防法を説明できる。
		15週	総括	次年度の自己の健康及び体力増進をイメージできる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	7	0	0	50	0	43	100
基礎的能力	7	0	0	0	0	0	7
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	50	0	43	93

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	書道

科目基礎情報

科目番号	0016	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	書道　Ｉ　（東京書籍）		
担当教員			

到達目標

・表現と鑑賞の幅広い活動から書を愛好する心を育てる。
・文化、伝統の理解を深める。
・書写能力を育てて自己表現する能力を高める。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	作品を仕上げ提出する	作品を仕上げ提出する	清書不提出 用具不足
評価項目2	授業前の準備が出来ている 積極的に添削に来る。 練習量が多い	授業中の態度に問題はない	練習量の不足
評価項目3	臨書することで技能を習得し古典作品の特徴が理解できる 鑑賞して自分の言葉で表現出来る	古典作品の特徴を理解し書けている	添削した作品を捨てる 集中力にかけている

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	・「漢字の書」 さまざまな書風にふれることで，鑑賞，表現の能力を高め，創作に生かしていく． ・「仮名の書」 色々な書風にふれ，美しさや表現方法を学び，創作に活かしていく． ・「漢字仮名交じりの書」 身近な題材や自らの思い，感動を語句にし，実用的表現形式に創作する．
授業の進め方・方法	実技で、作品、態度もしっかり取り組んでいるかを見ます。
注意点	「評価割合」のその他２０パーセントについては、持ち物（半紙、墨汁、筆太小、硯、文鎮、下敷き）等の用意がされているかを評価する。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	書へのいざない（１）	書に親しむ（身近な物から）
		2週	書へのいざない（２） 書へのいざない（２）	用具，用材について知る（文房四宝）
		3週	書へのいざない（３）	姿勢，執筆法を身につける
		4週	書へのいざない（４）	調和よく書く
		5週	書へのいざない（５）	書の美しさを知る
		6週	漢字の書（１）	古典を学ぶ
		7週	漢字の書（1）-2	古典を学ぶ
		8週	漢字の書（２）	孔子廟同
	2ndQ	9週	漢字の書（３）	九成宮醴泉銘
		10週	漢字の書（４）	雁塔聖教序
		11週	漢字の書（５）	顔氏家廟碑
		12週	漢字の書（６）	牛橛造像記
		13週	漢字の書（７）	鄭義下碑
		14週	行書（１）	集王聖教序
		15週	行書（１）-2	集王聖教序
		16週		
後期	3rdQ	1週	行書（２）	蘭亭序
		2週	行書（３）	風信帖
		3週	行書（４）	争坐位文稿
		4週	隷書（１）	曹全碑
		5週	隷書（２）	木簡
		6週	篆刻（１）	印を作ろうNo1
		7週	篆刻（２）	印を作ろうNo２
		8週	篆刻（３）	漢字の書の創作
	4thQ	9週	篆刻（4）	漢字の書の創作
		10週	仮名（１）	基本用筆を学ぶ
		11週	仮名（２）	平仮名を書く
		12週	仮名　（３）	高野切
		13週	漢字仮名交じり書（１）	書きたい言葉を古典から調べる
		14週	漢字仮名交じり書（２）	書きたい言葉を古典から調べる
		15週	漢字仮名交じり書（3）	書きたい言葉を古典から調べる

		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	80	20	100
基礎的能力	0	0	0	0	80	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	美術

科目基礎情報

科目番号	0017	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	美・創造へⅠ　（日本文教出版）、先輩や作家作品の写真等		
担当教員			

到達目標

・創造活動を通じて美的体験を豊かにし，表現と鑑賞の能力を伸ばす.
・美術を愛する心情を養う.

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	実技作品を仕上げて期限内に提出	実技作品を学期内に提出	実技作品の未提出
評価項目2	作品制作に積極的に取り組む	作品制作にまじめに取り組む	作品制作の意欲がない
評価項目3	作品の内容に創意工夫がある	作品の内容に自分らしさを出そうとしている	作品の内容に自己主張がほとんどない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	人間にとってアートがいかに必要なものであるかを理解するとともに、自分の生活の中にアートを取り入れる姿勢を養う。
授業の進め方・方法	・作品の製作に対して，授業中いかに集中と工夫を持って取り組むか，その姿勢を大事にする。 ・個性的なアイディアを発揮できるように助言する。
注意点	・原則として制作作業を家へ持ち帰ってしない. ・評価割合のその他（１０）は取り組む姿勢とする。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	美術学習の意義について理解する
		2週	素描（１）	手や人物など、鉛筆によるデッサン
		3週	素描（２）	手や人物など、鉛筆によるデッサン
		4週	ボックスアート（１）	ボックスアートについて知る
		5週	ボックスアート（２）	作家ジョセフ・コーネルについて知る
		6週	ボックスアート（３）	箱の中にどんな世界を作るか、テーマを決める
		7週	ボックスアート（４）	箱の中にどんな世界を作るか、テーマを決める
		8週	ボックスアート（５）	箱の中にどんな世界を作るか、テーマを決める
	2ndQ	9週	ボックスアート（６）	アイディアスケッチをすると同時にどんな材料が必要か考える
		10週	ボックスアート（７）	アイディアスケッチをすると同時にどんな材料が必要か考える
		11週	ボックスアート（８）	箱の中に入れるものを作っていく。彩色も含め進める
		12週	ボックスアート（９）	箱の中に入れるものを作っていく。彩色も含め進める
		13週	ボックスアート（１０）	箱の中へ組み立てていく
		14週	ボックスアート（11）	箱の中へ組み立てていく
		15週	ボックスアート（12）	箱の中へ組み立てていく
		16週		
後期	3rdQ	1週	ボックスアート（１３）	完成した作品（全員の作品）を教室内に展示、鑑賞する
		2週	ボックスアート（１４）	完成した作品（全員の作品）を教室内に展示、鑑賞する
		3週	デザインの面白さ	レタリンググ（明朝体とゴシック体）について学ぶ
		4週	絵文字（１）	どんな語を絵文字にするか、アイディアスケッチをする
		5週	絵文字（２）	どんな語を絵文字にするか、アイディアスケッチをする
		6週	絵文字（３）	どんな語を絵文字にするか、アイディアスケッチをする
		7週	絵文字（４）	下書きができ次第、彩色に入る
		8週	絵文字（５）	下書きができ次第、彩色に入る
	4thQ	9週	絵文字（６）	下書きができ次第、彩色に入る
		10週	絵文字（７）	配色と色使いを考えて進める
		11週	絵文字（８）	配色と色使いを考えて進める
		12週	ペン画（１）	ボールペンによって空想の世界を色紙に描く
		13週	ペン画（２）	ボールペンによって空想の世界を色紙に描く
		14週	ペン画（３）	ボールペンによって空想の世界を色紙に描く
		15週	1年間を振り返って	学生の作品を鑑賞sする 作品の返却
		16週		

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	90	10	100
基礎的能力	0	0	0	0	90	10	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	音楽

科目基礎情報

科目番号	0018	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	高校音楽Ⅰ Music View （教育出版社） Music note（五線譜）		
担当教員			

到達目標

1．作品を理解し、知識を深める
2．作品を演奏、発表する
3．鑑賞で自分の感想を素直に述べる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	作品の内用（作者、国、時代など）をよく理解する	作品の内用（作者、国、時代など）をある程度理解する	作品の内用（作者、国、時代など）を理解できない
評価項目2	演奏（歌唱、指揮、ピアノ伴奏）に積極的に参加する	演奏（歌唱、指揮、ピアノ伴奏）に指名されたら参加する	演奏（歌唱、指揮、ピアノ伴奏）に指名されても拒否する
評価項目3	レポートを仕上げて期限内に提出	レポートを学期内に提出	レポートの未提出

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	それぞれの時代、作者、国、時代背景などを理解しながら、作品を演奏し、内容を追及していく。
授業の進め方・方法	前半は実技でほぼ歌唱。合唱や作曲も行う。 後半は鑑賞。音楽を通じて文化に触れる。
注意点	配布するレポートは感想を記入して提出する。紛失しないこと。 遅刻、早退、中抜け、忘れ物、その他授業の妨害となる行為は減点対象となる

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス ／ 鑑賞	自己紹介、授業の説明・セロ弾きのゴーシュ 1
		2週	歌唱 ／ 鑑賞	校歌の暗譜 ／ セロ弾きのゴーシュ 2
		3週	歌唱 ／ 鑑賞	校歌の暗譜 ／ セロ弾きのゴーシュ 3 レポート提出
		4週	歌唱 ／ 鑑賞	少年時代 ／ 海の上のピアニスト 1
		5週	歌唱 ／ 鑑賞	少年時代 ／ 海の上のピアニスト 2
		6週	歌唱 ／ 鑑賞	手紙 ／ 海の上のピアニスト 3
		7週	歌唱 ／ 鑑賞	手紙 ／ 海の上のピアニスト 4 レポート提出
		8週	歌唱／鑑賞	O’ Sole Mio ／ 私らしく レポート提出
	2ndQ	9週	歌唱 ／ 鑑賞	O’ Sole Mio ／ ボレロ レポート提出
		10週	歌唱 ／ 鑑賞	Tonight ／ ウエストサイド物語 1
		11週	歌唱 ／ 鑑賞	Tonight ／ ウエストサイド物語 2
		12週	歌唱 ／ 鑑賞	Tonight ／ ウエストサイド物語 3
		13週	歌唱 ／ 鑑賞	Tonight ／ ウエストサイド物語 4
		14週	作曲／鑑賞	沖縄音階、ヨナヌキ音階で作曲 ／ ウエストサイド物語 4 レポート提出
		15週	歌唱 ／ 鑑賞	さとうきび畑 ／ HELP! 1
		16週		
後期	3rdQ	1週	歌唱 ／ 鑑賞	さとうきび畑 ／ HELP!2
		2週	歌唱 ／ 鑑賞	野ばら ／ HELP! 3
		3週	歌唱 ／ 鑑賞	野ばら ／ HELP! 4　レポート提出
		4週	歌唱 ／ 鑑賞	Oh Happy Day ／ 雨に唄えば 1
		5週	歌唱 ／ 鑑賞	Oh Happy Day ／ 雨に唄えば 2
		6週	歌唱 ／ 鑑賞	Oh Happy Day ／ 雨に唄えば 3
		7週	歌唱 ／ 鑑賞	Oh Happy Day ／ 雨に唄えば 4 レポート提出
		8週	歌唱 ／ 鑑賞	歓喜の歌 ／ リトル・マエストラ 1
	4thQ	9週	歌唱 ／ 鑑賞	歓喜の歌 ／ リトル・マエストラ 2
		10週	歌唱 ／ 鑑賞	歓喜の歌 ／ リトル・マエストラ3
		11週	歌唱 ／ 鑑賞	歓喜の歌 ／ リトル・マエストラ 4 レポート提出
		12週	歌唱 ／ 鑑賞	歓喜の歌 ／ 交響曲第 9 番 レポート提出
		13週	歌唱 ／ 鑑賞	故郷 ／ 美女と野獣 1
		14週	歌唱 ／ 鑑賞	この道、赤とんぼ ／ 美女と野獣 2
		15週	まとめ	全曲演奏、レポートのまとめ
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計

総合評価割合	0	20	0	0	80	0	100
基礎的能力	0	20	0	0	80	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	English Communication 2

科目基礎情報

科目番号	0020	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	後期	週時間数	4
教科書/教材	COMET English Communication I（数研出版）		
担当教員			

到達目標

Reading　簡単な英語で書かれた身近な事柄についての比較的短い文章を読み、理解し、日本語で要旨を述べることができる。教科書の英文であれば、練習を繰り返せば、間違わずに読むことができる。
Listening　英語で伝えられた、日常的に使われる程度の指示や質問の内容を理解し、それを受けて何らかの行動や応答に移すことができる。
Writing　基本的な構文や単語を利用しながら、自分や身の回りのことについてまとまりのある英文を書ける。
Speaking　決まったフレーズや例文を頼りに、自分や身の回りのことについて簡単な会話を行ったり、発表ができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	教科書を見て正しく区切りをつけながら音読ができる。	教科書の基本的な音読ができる。	教科書に出てくる単語を十分に音読することができない。
評価項目2	CDなどの音声教材を聞きとり、内容把握ができる。	CDなどの音声教材を聞き取り、おおまかな内容把握ができる。	CDなどの音声教材を十分聞き取ることができない。
評価項目3	自分自身や身の回りのことについて正しく書いたり、話したりすることができる。	自分自身や身の回りのことについて、書いたり話したりしながら内容を相手に伝えることができる。	自分自身や身の回りのことについて、書いたり話したりすることが十分にできない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	1　各レッスンの扉の写真を見ながら、本文の内容について簡単なやり取りをする。 2　新出単語や連語についての発音と意味を確認する。 3　本文の音声を聞き、音読練習を様々な音読練習を行なう。 4　本文の内容を理解し、設問に日本語で答える。 5　本文理解の助けとなる文法事項や代名詞を確認しながら、要点を確認する。 6　課末の表現や格言を利用して、表現活動を行なう。
授業の進め方・方法	1　英語を読んだり聞いたりして、自分の考えや感想を発言しようとしたり、聴こうとしている。 2　本文を読んで感想を発表したり、しっかり聴こうとしている。 3　発音と文のリズムに注意して英文を淀みなく読むことができる。 4　本文の内容を簡潔にまとめたり、それについての自分の意見を簡単に話したり、書いたりできる。 5　各課で扱われる文法や表現を用いて簡単な文章を作ったり、やり取りができる。 6　本文中の代名詞が指す内容について理解できる。 7　本文の内容について理解できる。 8　始めて聞く英文のポイントを聞き取ることができる。 9　各課で扱われる文法事項の用法を理解している。 10　日常生活で有用な表現等に知っている。 ⑪英語を通して各国の文化とその背景を理解している。
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	Lesson 6 Living as a Carpenter	人物や仕事に関する文を読解することができる。
		2週	Lesson 6 Living as a Carpenter	受け身について理解し、活用することができる。
		3週	Activity 2, Let's Try Riddles Speak Aloud 2 Phrase Reading	４技能の総合的な演習を行う。
		4週	Lesson 7 Flying Wheelchairs	福祉や仕事に関する文を読解することができる。
		5週	Lesson 7 Flying Wheelchairs Activity 3	現在完了（継続・経験・完了）について理解し、活用することができる。 Activity 3フリーマーケットで買い物
		6週	Lesson 8 Convenience Stores: the Keys to Their Success	生活や社会に関する文を読解することができる。
		7週	Lesson 8 Convenience Stores: the Keys to Their Success Activity 4	現在分詞・過去分詞（形容詞用法）について理解し、かつようできる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却・解答	
		10週	Lesson 9 Tricks on Your Eyes	化学に関する文を読解することができる。
		11週	Lesson 9 Tricks on Your Eyes	比較（比較級・最上級）を理解し、活用することができる。
		12週	Lesson 10 Ando Momofuku: the Father of Instant Noodles	人物や仕事に関するより高度な文を読解することができる。
		13週	Lesson 10 Ando Momofuku: the Father of Instant Noodles	関係代名詞、関係副詞を理解し、活用することができる。
		14週	Reading Hachiko	動物や愛情に関する物語を読み取ることができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	10	0	10	20	0	100
基礎的能力	60	10	0	10	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	一般基礎教育１

科目基礎情報

科目番号	0022	科目区分	一般 / 必修
授業形態	演習	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	1
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	大学　　学びのことはじめ　（ナカニシヤ出版）		
担当教員			

到達目標

①　高専生として主体的に学習する姿勢を培う。
②　エンジニアとして社会でキャリアを積み上げていくための礎をつくる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	熱心に演習に取り組み、明確な成果を上げることができない。	熱心に演習に取り組むことができる。	演習に出席できない。
評価項目2	ノートを取りながら授業を受け、自分の将来のことを考えながら、幅広い知識を身に付けることができる。	ノートを取りながら授業を受け、必要な知識を身に付けることができる。	ノートが取れない。
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	一般基礎教育１は、キャリア教育と英語基礎演習・数理基礎演習を、５・６限に隔週でおこなう。各学期に数回、専門学科教員の話、講演会などが実施される。また、本校の教育課程には含まれていない内容についても学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は、教室か視聴覚教室のいずれかでおこなう。実施教室、担当教員についてはその都度確認すること。 ５限目に英語基礎演習、６限目に数理基礎演習を実施する。原則として習熟度別で授業をおこなう。クラス分けについては、ベネッセ・スタディサポート、中間試験、期末試験の結果によって決定する。
注意点	合格・不合格のみで評価し、評点はつけない。 合格・不合格は出席、課題の提出（期限内に提出しているか、課題の内容）を評価対象とする。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	一般基礎教育１の授業予定 高専とは？一般教育科の紹介
		2週	オリエンテーション	各専門学科の先生の話図書館の使い方 保健室と学生相談室について　（３学科で交代）
		3週	オリエンテーション	gmail他の使い方の講習
		4週	基礎演習	漢字テスト、国語辞書について
		5週	キャリア	検定試験について（一般・専門）
		6週	キャリア	消費者教育
		7週	基礎演習	英語、数学・理科
		8週		オリエンテーション時のグループワーク
	2ndQ	9週	基礎演習	英語、数学・理科
		10週	キャリア	一般教育科教員による教科・研究の紹介
		11週	基礎演習	英語、数学・理科
		12週	キャリア	スマートデバイス、情報リテラシーについて
		13週	基礎演習	英語、数学・理科
		14週	キャリア	専門学科の先生の話
		15週		
		16週	基礎演習	英語、数学・理科
後期	3rdQ	1週	キャリア	社会意識（マナー）について、テキストの課題演習
		2週	基礎演習	英語、数学・理科
		3週	キャリア	本校卒業生の話、話を聞いた感想を書く
		4週	基礎演習	英語、数学・理科
		5週	キャリア	学校祭についての話、テキストの課題演習
		6週	基礎演習	英語、数学・理科
		7週	キャリア	食育について（予定）
		8週	基礎演習	中間試験対策
	4thQ	9週	基礎演習	英語、数学・理科
		10週	キャリア	外部試験受験
		11週	基礎演習	英語、数学・理科
		12週	キャリア	学生主事の話
		13週	基礎演習	英語、数学・理科
		14週	キャリア	この１年の振り返り
		15週	キャリア	卒研発表会を見学
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	授業参加	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	100	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語（2年）

科目基礎情報

科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	特に使用しない。常用漢字クリア、国語要覧、随時プリント配布		
担当教員			

到達目標

1．常用漢字、同音異義語、対義語、類義語、慣用句等の語彙力を高める。
2．論理的な文章を読み、論の展開や論旨を読み解く。
3．文学作品を鑑賞し、人物・情景・心情等の描写を読み味わう。
4．古典文学（古文及び漢文）を鑑賞し、時代背景など基礎的知識を習得する。
5．新聞記事やコラムを読んで、「いま」を考える。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	到達目標の各分野（常用漢字、論理的文章、文学作品、古典文学、新聞記事等）に真剣に取り組み、学習効果をあげることができる。	到達目標の各分野（常用漢字、論理的文章、文学作品、古典文学、新聞記事等）に真面目に取り組むことができる。	到達目標の各分野（常用漢字、文学作品、古典文学、新聞記事等）に真面目に取り組むことができない。
評価項目2	定期試験や小テスト等でしっかりと努力の成果を出すことができる。	定期試験や小テスト等で努力の跡を出すことができる。	定期試験や小テスト等で頑張りや努力ができない。
評価項目3	提出物をきちんと仕上げて期限内に提出することができる。	提出物を期限内に提出することができる。	提出物を期限内に提出することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	高等専門学校といえども、３年次までは高等学校の分野を併せ持つ意味から、国語の総合的分野を学習していくことが大切である。 従って、漢字学習をはじめ、現代文のみならず、古文や漢文についても、基礎的な学習を展開していく。また、日本の将来を担う優位な人間に成長するためには、 常に「いま」を考えることが大切である。そういう観点から、様々な視点で考え、視野を広げるために、新聞記事等も教材として扱っていく。
授業の進め方・方法	①毎回の授業時に、漢字テキスト（『常用漢字クリア』）からプリント形式で漢字学習をする。その際、漢字検定やSPI形式を念頭に置きながら、対義語、類義語、同音異字、慣用句等、語彙の幅を広げていくような学習を展開していく。 ②９０分の授業を前半４５分と後半４５分に二分化し、前半は漢字学習を、後半は各ジャンルの教材を学習していく。 ③前半の漢字学習は語彙力をつけるための学習法を展開し、生き生きとした、活動的な学習の場を目指す。 ④後半の各ジャンルの教材および新聞記事等については、プリントによる投げ込み形式であるが、授業計画に即し、ジャンルに応じた学習を目指す。
注意点	①授業中は学習に集中して取り組むこと。日々の授業態度が、評価割合の「態度」として位置づけてある。 ②与えられた課題は提出期限を厳守する。提出物については、評価割合の「ポートフォリオ」賭して位置づけてある。 ③毎回、前回の漢字学習の習熟度を小テストで確認する。その小テストについては、評価割合の「その他」として位置づけてある。 ④前年度までに履修した国語の基礎知識を習得しているものとして学習を継続していく。従って、漢字テキストについては、原則的に前年度学習範囲を引き継ぐ形で進めていく。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンスと漢字学習	年間学習のしかたやテキストの使い方、小テストなどの取り組み方、提出物のあり方等を理解できる
		2週	漢字学習と評論①	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は論旨の展開を把握することができる
		3週	漢字学習と評論②	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は論旨の展開を把握することができる前半は
		4週	漢字学習と評論③	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は論旨の展開を把握し、自分の考えや意見をまとめることができる
		5週	漢字学習と評論④	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は論旨の展開を把握し、自分の考えや意見をまとめることができる
		6週	漢字学習と新聞記事①	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半はタイムリーなテーマや身近な題材を通して、自己表現力を高めることができる
		7週	漢字学習と新聞記事②	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半はタイムリーなテーマや身近な題材を通して、自己表現力を高めることができる
		8週	前期中間試験	これまでの学習内容を理解し、試験問題に適切な回答ができる
	2ndQ	9週	試験の解答解説と漢字学習	前を半は試験の見直しを通して、答えとその正しい導き方を確認することができ、後半SPIを意識した漢字学習に取り組むことができる

		10週	漢字学習と古文①	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は説話文学のおもしろさを通して、古文に関心をもつことができる
		11週	漢字学習と古文②	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は古典文学のおもしろさを通して、古文に関心をもつことができる
		12週	漢字学習と古文③	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は古典文学のおもしろさを通して、古文に関心をもつことができる
		13週	漢字学習と古文④	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は古典文学のおもしろさを通して、古文に関心をもつことができる
		14週	漢字学習と新聞記事③	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半はタイムリーなテーマや身近な題材を通して、自己表現力を高めることができる
		15週	前期期末試験	
		16週	試験の解答解説と漢字学習	前半は試験の見直しを通して、答えとその正しい導き方を確認することができ、後半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができる。
後期	3rdQ	1週	漢字学習と小説①	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は小説に登場人物の心情を把握することができる。
		2週	漢字学習と小説②	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は小説に登場人物の心情を把握することができる。
		3週	漢字学習と小説③	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は小説に登場人物の心情を把握することができる。
		4週	漢字学習と小説④	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は登場人物の心情を把握するとともに、作品の時代背景や作者の文学史的位置づけを理解できる。
		5週	漢字学習と小説⑤	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は登場人物の心情を把握するとともに、作品の時代背景や作者の文学史的位置づけを理解できる。
		6週	漢字学習と新聞記事④	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半はタイムリーなテーマや身近な題材を通して、自己表現力を高めることができる。
		7週	漢字学習と新聞記事⑤	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半はタイムリーなテーマや身近な題材を通して、自己表現力を高めることができる。
		8週	後期中間試験	これまでの学習内容を理解し、試験問題に適切な解答ができる。
	4thQ	9週	試験の解答解説と漢字学習	前半は試験の見直しを通して、答えとその正しい導き方を確認することができ、後半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができる。
		10週	漢字学習と漢文①	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は漢文学習の基本的な知識を身につけることができる。
		11週	漢字学習と漢文②	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は漢文学習の基本的な知識を身につけることができる。
		12週	漢字学習と漢文③	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は漢文を通して、自分の生活に密着した故事成語が多くあることを理解する。
		13週	漢字学習と漢文④	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半は漢文を通して、自分の生活に密着した故事成語が多くあることを理解する。
		14週	漢字学習と新聞記事⑥	前半はSPIを意識した漢字学習に取り組むことができ、後半はタイムリーなテーマや身近な題材を通して、自己表現力を高めることができる。
		15週	後期期末試験	
		16週	試験の解答解説・年間授業の総括	試験の見直しを通して、答えとその正しい導き方を確認し、年間学習の振り返りをすることができる。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	10	10	20	100
基礎的能力	60	0	0	10	10	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史

科目基礎情報

科目番号	0004	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	高等学校世界史A（183第一　世A309）、新詳高等地図（1年次地理から継続）		
担当教員			

到達目標

1. 世界の歴史を通じて、人間活動と自然環境との関わりから生まれる様々な文化、宗教、各地域の地理的・歴史的特性を、科学技術や産業の発展が人間社会や自然環境に及ぼした影響も含めて学び、文化の多様性を理解し、各地域の人々の交流や対立によって生み出されてきた様々な問題を、歴史的背景を含めて理解する基礎を身につける。
2. 提出物を期限内に仕上げて提出するスケジュール能力を身につける。
3. 授業に集中し、必要な知識を身につけることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	授業であつかった世界史の概略をよく理解し、主要な事項について、興味や関心を抱いて、原因や結果にいたるまで説明できる。	授業であつかった世界史の概略を理解し、主要な事項について説明できる。	授業であつかった世界史の概略を理解できない。
評価項目2	提出物をきちんと仕上げて、期限内に提出することができる。	提出物を期限内に提出することができる。	提出物を期限内に提出することができない。
評価項目3	小テストの内容をよく理解して、発展問題を自分で作成することができる。	小テストの内容を理解し、類似問題を解くことができる。	小テストの内容を理解できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	ヨーロッパを中心として、古代・中世・近代の世界史を概観する。
授業の進め方・方法	授業は講義形式を中心とする。 小テストをしっかり復習すること。
注意点	・日頃から新聞やニュースに目を通し、現在、日本や世界で起こっていることについて、広い関心を持つこと。 ・身近なところに地図帳を起き、ニュースに登場する地名を確かめて、頭の中に日本や世界の地図を作ること。 ・ノートをとる際には、黒板を書き写すだけでなく、気づいたことや説明などのメモを加え、後から振り返ったときに役に立つ独自のノートを目指すこと。 ・成績評価は評価割合に準拠するが、授業中の居眠りなどが甚だしい場合には、減点することもある。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	古代	紀元前6世紀から紀元前5世紀に、世界で宗教や哲学が生まれていたことを説明できる（仏教、儒教、ギリシア哲学、ユダヤ教）。
		2週	中国の古代	秦・漢帝国で皇帝が誕生し、儒教が国家の学問に採用され、後2000年にわたる帝国の原型ができたことを説明できる。
		3週	ローマ帝国（1）	古代ローマ文明の特徴を説明できる。 パクス・ロマーナについて説明できる。
		4週	ローマ帝国（2）	キリスト教の特徴と広がりについて説明できる。
		5週	イスラームの成立	イスラームの特徴について説明できる。
		6週	イスラーム帝国	スンナ派とシーア派の分裂、イスラーム帝国の拡大について説明できる。
		7週	モンゴル帝国	モンゴル帝国によって、ユーラシア大陸の東西を結ぶ商業ネットワークが成立したことを説明できる。
		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
	2ndQ	9週	試験返却・解答 ビザンツ帝国	ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界の成立について説明できる。
		10週	西ヨーロッパの中世世界	ローマ教皇と神聖ローマ皇帝を中心とした、西ヨーロッパの封建社会について説明できる。
		11週	遠隔地交易と中世都市	商人と職人の世界である中世都市と、遠隔地交易の発展について説明できる。
		12週	十字軍	十字軍運動とその失敗について説明できる。
		13週	14世紀の危機	気候変動と疫病がユーラシア大陸に与えた影響について説明できる。
		14週	大航海時代	アジアへのあこがれから始まったヨーロッパの「大航海時代」について説明できる。 ポルトガルとスペインの海外進出について説明できる。
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
		16週	試験返却・解答 アメリカ大陸の古文明	アステカ王国・インカ帝国の概略について説明できる。
後期	3rdQ	1週	スペインによる中南米征服	アメリカ大陸の文明がスペイン人の侵略によって滅亡したことを説明できる。 ヨーロッパとアメリカ大陸の出会いによって、双方がどういう影響を受けたのかを説明できる。

		2週	グローバル化のはじまり	砂糖プランテーションと奴隷貿易と大西洋三角貿易について説明できる。 スペインによるフィリピン征服によって、太平洋での貿易が始まったことを説明できる。
		3週	ルネサンス	中世とルネサンスの考え方の違いが比較できる。 ルネサンスがイタリアで始まり、ヨーロッパ各地に広がった背景を説明できる。
		4週	宗教改革	ルネサンスの宗教改革への影響について説明できる。 ルターの宗教改革が、ドイツ農民戦争につながった経緯を説明できる。 カルヴァン派の予定説が商工業者に受け入れられたことを説明できる。
		5週	対抗宗教改革	カトリック内部の規律強化と海外への布教が、対抗宗教改革の柱だったことを説明できる。 16～17世紀のヨーロッパが宗教戦争の時代だったことを説明できる。
		6週	主権国家の成立	近世の主権国家のなかで、国王による中央集権化が進んだことを説明できる。 16世紀に新たに生まれた主権国家同士の関係が、後の国際関係の基本的な考え方につながったことを説明できる。
		7週	ハプスブルク家の盛衰	16世紀のハプスブルク帝国の拡大、スペイン帝国の繁栄と弱体化、ネーデルラント独立とイギリスとの抗争について説明できる。
		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
	4thQ	9週	試験返却・解答 三十年戦争	ドイツ三十年戦争と主権国家体制の成立について説明できる。
		10週	フランス絶対王政	ユグノー戦争の終結と、ルイ14世の絶対王政について説明できる。
		11週	イギリス革命	ジェントルマン階級の成立と、17世紀の革命によって、イギリスで議会主権が定着したことを説明できる。
		12週	アメリカ独立革命とフランス革命	アメリカ独立革命とアメリカ大陸での領土拡大について説明できる。 フランス革命とその後の混乱、ナポレオンの台頭と敗退について説明できる。
		13週	産業革命と労働運動（社会主義）のはじまり	産業革命の背景と展開の概略を説明できる。 産業革命が生活面でもたらした変化について説明できる。 資本主義経済と社会主義思想を比較し、概略を説明できる
		14週	イギリスの繁栄と世界市場の形成	「世界の工場」イギリスの経済政策について説明できる。
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
		16週	試験返却・解答	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	微分積分Ａ

科目基礎情報

科目番号	0005	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 3
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	3
教科書/教材	矢野，石原： 基礎の数学 改訂版，裳華房 / 矢野，石原： 問題集　基礎の数学，裳華房 / 矢野，石原：微分積分 改訂版，裳華房		
担当教員			

到達目標

1. 分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができる。
2. 指数と対数に関するの基本的な問題を解くことができる。
3. 整関数の微分と積分に関する基本的な問題を解くことができる。
4. 関数の極限に関する基本的な問題を解くことができる。
5. 積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができる。
6. 三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数関する基本的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	分数関数・無理関数・逆関数に関する応用的な問題を解くことができる。	分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができる。	分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	指数と対数に関する応用的な問題を解くことができる。	指数と対数に関するの基本的な問題を解くことができる。	指数と対数に関するの基本的な問題を解くことができない。
評価項目3	整関数の微分と積分に関する応用的な問題を解くことができる。	整関数の微分と積分に関する基本的な問題を解くことができる。	整関数の微分と積分に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目4	関数の極限に関する応用的な問題を解くことができる。	関数の極限に関する基本的な問題を解くことができる。	関数の極限に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目5	積・商・合成関数の微分公式を利用した応用的な問題を解くことができる。	積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができる。	積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができない。
評価項目6	三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数関する応用的な問題を解くことができる。	三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数関する基本的な問題を解くことができる。	三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数関する基本的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	前期 　分数関数・無理関数・指数関数・対数関数等について、それぞれの関数の性質とグラフについて学ぶ。 　整関数を題材として、微分・積分の基本事項について学ぶ。 後期 　関数の極限の概要とその値の求め方について学ぶ。 　三角関数・逆三角関数・指数関数・対数関数の微分について学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行い，演習は同一週に開講される微分積分Bの授業で行う.
注意点	微分積分Aは、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。
		2週	分数関数	分数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。
		3週	無理関数	無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。
		4週	逆関数	基本的な関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。
		5週	累乗根と指数の拡張	累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。
		6週	指数関数	指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。
		7週	指数方程式	指数を含む基本的な方程式を解くことができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	試験返却・解答 対数の定義と計算	対数の定義を知り、基本的な計算ができる。
		10週	対数関数	対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。
		11週	対数方程式	対数を含む基本的な方程式を解くことができる。
		12週	関数の極限と微分係数	関数の極限と微分係数の意味を理解し、整関数についてその値を求めることができる。
		13週	整関数の微分	導関数の定義を理解し、整関数の微分ができる。
		14週	整関数の積分	整関数について、不定積分・定積分の計算ができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	
後期	3rdQ	1週	関数の極限	いろいろな関数の極限を求めることができる。
		2週	積の微分公式	積の導関数の公式を使うことができる。

		3週	商の微分本公式	商の導関数の公式を使うことができる。
		4週	合成関数の微分公式	合成関数の導関数を求めることができる。
		5週	三角関数の極限	三角関数に関係した極限を求めることができる。
		6週	三角関数の微分（１）	基本的な三角関数の導関数を求めることができる。
		7週	三角関数の微分（２）	積・商・合成関数を利用して、三角関数の導関数を求めることができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却・解答 逆三角関数の定義	逆三角関数の定義を知り、値を求めることができる。
		10週	逆三角関数の微分（１）	基本的な逆三角関数の導関数を求めることができる。
		11週	逆三角関数の微分（２）	積・商・合成関数を利用して、逆三角関数の導関数を求めることができる。
		12週	自然対数の底	自然対数の底について知り、関係する基本的な計算ができる。
		13週	指数関数の微分	指数関数の導関数を求めることができる。
		14週	対数関数の微分	対数関数の導関数を求めることができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	微分積分Ｂ

科目基礎情報

科目番号	0006	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	矢野，石原： 基礎の数学 改訂版，裳華房 / 矢野，石原： 問題集　基礎の数学，裳華房 / 矢野，石原：微分積分 改訂版，裳華房		
担当教員			

到達目標

1. 分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができる。
2. 指数と対数に関するの基本的な問題を解くことができる。
3. 整関数の微分と積分に関する基本的な問題を解くことができる。
4. 関数の極限に関する基本的な問題を解くことができる。
5. 積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができる。
6. 三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数関する基本的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	分数関数・無理関数・逆関数に関する応用的な問題を解くことができる。	分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができる。	分数関数・無理関数・逆関数に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	指数と対数に関する応用的な問題を解くことができる。	指数と対数に関するの基本的な問題を解くことができる。	指数と対数に関するの基本的な問題を解くことができない。
評価項目3	整関数の微分と積分に関する応用的な問題を解くことができる。	整関数の微分と積分に関する基本的な問題を解くことができる。	整関数の微分と積分に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目4	関数の極限に関する応用的な問題を解くことができる。	関数の極限に関する基本的な問題を解くことができる。	関数の極限に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目5	積・商・合成関数の微分公式を利用した応用的な問題を解くことができる。	積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができる。	積・商・合成関数の微分公式を利用した基本的な問題を解くことができない。
評価項目6	三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数関する応用的な問題を解くことができる。	三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数関する基本的な問題を解くことができる。	三角関数・逆三角関数・対数関数・指数関数の導関数関する基本的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	前期 　分数関数・無理関数・指数関数・対数関数等について、それぞれの関数の性質とグラフについて学ぶ。 　整関数を題材として、微分・積分の基本事項について学ぶ。 後期 　関数の極限の概要とその値の求め方について学ぶ。 　三角関数・逆三角関数・指数関数・対数関数の微分について学ぶ。
授業の進め方・方法	この授業は，同一週に開講される微分積分Aの内容に関する演習を中心として行う。
注意点	微分積分Bは、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。
		2週	分数関数	分数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。
		3週	無理関数	無理関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。
		4週	逆関数	基本的な関数の逆関数を求め、そのグラフをかくことができる。
		5週	累乗根と指数の拡張	累乗根の意味を理解し、指数法則を拡張し、計算に利用することができる。
		6週	指数関数	指数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。
		7週	指数方程式	指数を含む基本的な方程式を解くことができる。
		8週	前期中間試験対策	前期中間試験の範囲の復習を行う。
	2ndQ	9週	対数の定義と計算	対数の定義を知り、基本的な計算ができる。
		10週	対数関数	対数関数の性質を理解し、グラフをかくことができる。
		11週	対数方程式	対数を含む基本的な方程式を解くことができる。
		12週	関数の極限と微分係数	関数の極限と微分係数の意味を理解し、整関数についてその値を求めることができる。
		13週	整関数の微分	導関数の定義を理解し、整関数の微分ができる。
		14週	整関数の積分	整関数について、不定積分・定積分の計算ができる。
		15週		
		16週	前期の総復習	前期に扱った内容についての復習を行う。
後期	3rdQ	1週	関数の極限	いろいろな関数の極限を求めることができる。
		2週	積の微分公式	積の導関数の公式を使うことができる。

		3週	商の微分本公式	商の導関数の公式を使うことができる。
		4週	合成関数の微分公式	合成関数の導関数を求めることができる。
		5週	三角関数の極限	三角関数に関係した極限を求めることができる。
		6週	三角関数の微分（１）	基本的な三角関数の導関数を求めることができる。
		7週	三角関数の微分（２）	積・商・合成関数を利用して、三角関数の導関数を求めることができる。
		8週	後期中間試験対策	後期中間試験の範囲の復習を行う。
	4thQ	9週	逆三角関数の定義	逆三角関数の定義を知り、値を求めることができる。
		10週	逆三角関数の微分（１）	基本的な逆三角関数の導関数を求めることができる。
		11週	逆三角関数の微分（２）	積・商・合成関数を利用して、逆三角関数の導関数を求めることができる。
		12週	自然対数の底	自然対数の底について知り、関係する基本的な計算ができる。
		13週	指数関数の微分	指数関数の導関数を求めることができる。
		14週	対数関数の微分	対数関数の導関数を求めることができる。
		15週		
		16週	後期の総復習	後期に扱った内容についての復習を行う。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	100	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	100	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	代数･幾何

科目基礎情報

科目番号	0007	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	矢野，石原： 基礎の数学　改訂版，裳華房 / 矢野，石原： 問題集　基礎の数学，裳華房		
担当教員			

到達目標

1. 平面図形と式に関する基本的な問題を解くことができる。
2. 数列に関する基本的な問題を解くことができる。
3. 場合の数に関する基本的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	平面図形と式に関する応用的な問題を解くことができる。	平面図形と式に関する基本的な問題を解くことができる。	平面図形と式に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	数列に関する応用的な問題を解くことができる。	数列に関する基本的な問題を解くことができる。	数列に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目3	場合の数に関する応用的な問題を解くことができる。	場合の数に関する基本的な問題を解くことができる。	場合の数に関する基本的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	平面図形と式、 数列、 場合の数に関する基本的な事項を学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。
注意点	代数幾何は、高等専門学校でこれから学んでいく数学や専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。
		2週	2点間の距離	2点間の距離を求めることができる。
		3週	内分点と外分点	内分点と外分点の座標を求めることができる。
		4週	直線の方程式（１）	通る点と傾きから直線の方程式を求めることができる。
		5週	直線の方程式（２）	２点を通る直線の方程式を求めることができる。
		6週	２つの直線の平行と垂直	２つの直線の平行・垂直関係を傾きの関係として理解できる。
		7週	平行・垂直な直線の方程式	平行な直線や垂直な直線の方程式を求めることができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	試験返却・解答 円の方程式	基本的な円の方程式を求めることができる。
		10週	中心と半径	円の方程式から中心の座標と半径を求めることができる。
		11週	円と直線（１）	円と直線の位置関係と連立方程式の解との関係について知る。
		12週	円と直線（２）	与えられた方程式から円と直線の位置関係が判定できる。
		13週	円の接線（１）	円の接線の方程式を求めることができる。
		14週	円の接線（２）	円の接線に関する基本的な問題を解くことができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	
後期	3rdQ	1週	等差数列（１）	等差数列の一般項やその和を求めることができる。
		2週	等差数列（２）	等差数列に関係する応用的な問題を解くことができる。
		3週	等比数列	等比数列の一般項やその和を求めることができる。
		4週	総和記号（１）	総和記号Σを用いて数列の和を表現することができる。
		5週	総和記号（２）	総和記号Σを用いた基本的な数列の和を計算することができる。
		6週	階差数列	階差数列と元の数列との関係を知る。
		7週	漸化式	漸化式の意味を知る。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却・解答 積の法則と和の法則	場合の数の計算における積の法則と和の法則の違いを理解する。
		10週	順列と組合せ	順列と組合せの違いを理解してする。
		11週	順列の計算	順列に関する基本的な計算ができる。
		12週	組合せの計算	組合せに関する基本的な計算ができる。

		13週	二項定理	二項定理の意味を知る。
		14週	二項定理の計算	二項定理を用いた基本的な問題が解ける。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	化学

科目基礎情報

科目番号	0009	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	新編化学基礎，ニューアチーブ化学基礎，新編化学，ニューサポート新編化学（東京書籍）		
担当教員			

到達目標

我々の身の回りにある物質やその変化・性質を理解するため、「物質の成り立ち」、「原子の構造とそれから発現する性質」、「化学結合」、「化学反応」などの基礎を修得する項目からなる教育領域である。高校化学要領基礎化学の目標である「日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への感心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う」を基本目標とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
科学的概念について	化学と人間生活の関わりについて，科学的概念や化学の法則などを用いて説明できる。	化学と人間生活の関わりについて，用語や概念の誘導をされると説明ができる。	化学と人間生活の関わりについて，説明できない。
物質の構成について	物質の構成について，原子の構造や化学結合の違いから発現する性質を踏まえ説明ができる。	物質の構成について，典型的な例についての説明ができる。	物質の構成について，まったく説明ができない。
物質の変化について	物質の変化について，化学反応やその量的関係の観点について理解ができている。	物質の変化について，典型的な事例については理解できている。	物質の変化について，まったく理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	コアカリキュラムの要求範囲を中心として、今後専門教育を受講するのに必要な内容を理解するのに必要な内容について、指定教科書を用いて講義し、指定問題集を用いて自学自習する。
授業の進め方・方法	試験： 中間・期末試験を前後期計4回を目途に実施する。再試験は最終の試験でのみで実施するので注意すること。 出席： 特別な事由がなく、授業に欠席しないこと。正規または任意の連絡無しに欠席遅刻等があった場合は減点する。 ポートフォリオ： 授業中に指示された小テストや宿題、課題の提出等で確認する。 態度： 授業への集中度が著しく低い場合は，総合点より大きく減点する。 その他： 授業の取り組みや授業内容の理解度などを総合的に評価し決定する。
注意点	学習上の留意点 ・自然の事物・現象に関することを題材にして，基本的な概念，原理，法則を理解するよう務めること。 ・欠席や遅刻，従業への集中度が著しく低い場合は，総合点より大きく減点する。 ・学習事項の練習問題・発展問題などを適宜課題とする。また，既習事項の確認のため小テストを課すことがある。 ・提出物やその他課題についてはそれぞれの指示に従い，提出期限を厳守すること。 ・授業中に他人に危害を加えたり，授業の妨害を行ったりした場合は単位を習得できない。 関連する科目 ・特になし。 学習上の助言 ・教科書や副教材などを用いて，復習を中心とした自学自習を行なうこと。 ・自学自習の際，高校生向け学習参考書全般が参考となるので各自利用すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	酸化と還元（1）	酸化還元反応について説明できる。
		2週	酸化と還元（2）	酸化数を使って酸化還元反応を説明できる。
		3週	酸化剤と還元剤	酸化剤と還元剤の働きについて説明ができる。 酸化剤と還元剤の組み合わせから酸還元反応式が組み立てられることを理解できる。
		4週	金属のイオン化傾向	イオン化傾向について説明できる 金属の反応性についてイオン化傾向に基づき説明できる。
		5週	酸化還元反応と人間生活	人間生活での酸還元反応の利用について理解できる。
		6週	まとめ　問題演習	
		7週	中間試験	
		8週	化学反応と電気エネルギー 電気分解（1）	電気分解とエネルギーの関係について理解できる。
	2ndQ	9週	電気分解（2）	電気分解反応を説明できる。
		10週	電気分解（3）	ファラデーの法則による計算ができる。
		11週	電気分解（4）	電気分解の利用として、たとえば電解めっき、銅の精錬、金属のリサイクルへの適用など、実社会における技術の利用例を説明できる。
		12週	電池（1）	ダニエル電池についてその反応が説明できる。 鉛蓄電池についてその反応が説明できる。
		13週	電池（2）	一次電池の種類を知っている。 二次電池の種類を知っている。
		14週	まとめ　問題演習	
		15週	定期試験	
		16週	答案返却・解答解説	
後期	3rdQ	1週	物質の状態と平衡 物質の状態	物質を構成する分子・原子が常に運動していることが理解できる。
		2週	粒子の熱運動	水の状態変化が理解できる。

		3週	状態変化とエネルギー	物質の三態とその状態変化を説明できる。
		4週	気体の体積の変化	ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル-シャルルの法則を説明でき、必要な計算ができる。
		5週	気体の状態方程式	気体の状態方程式が説明でき、気体の状態方程式を使った計算ができる。
		6週	混合気体 実在気体と理想気体	混合気体と分圧の法則を理解している。 理想気体と実在気体の違いについて説明できる。
		7週	まとめ　問題演習	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	化学反応と熱・光エネルギー 温度と熱 発熱反応と吸熱反応	温度と熱の関係についてエネルギーを用いて説明することができる。 物質の比熱と温度変化から、その物質が吸収した熱量を計算することができる。 化学反応などにおける熱の発生や吸収を、化学エネルギーを使って説明ができる。
		10週	反応熱と熱化学方程式	おもな反応熱について説明ができる。 おもな反応熱を熱化学方程式で表すことができる。
		11週	光とエネルギー	おもな化学発光について知っている。 おもな生物発光について知っている。
		12週	ヘスの法則 生成熱と反応熱	ヘスの法則について説明ができる。 物質の生成熱とヘスの法則の関係から、反応熱が求められることを知っている。
		13週	結合エネルギーと反応熱	結合エネルギーについて説明ができる。 結合エネルギーとヘスの法則の関係から、反応熱が求められることを知っている。
		14週	まとめ　問題演習	
		15週	定期試験	
		16週	答案返却・解答解説	

評価割合

	試験	出席	相互評価	ポートフォリオ	態度	その他	合計
総合評価割合	50	10	0	20	0	20	100
基礎的能力	50	10	0	20	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	生物

科目基礎情報

科目番号	0010	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	教科書　新編　生物基礎　本川達雄、谷本英一　編、啓林館、　補助教材　生物図録（フォトサイエンス）　改訂版 鈴木孝仁　監修　数研出版		
担当教員			

到達目標

科目の到達レベル
１．生物とそれを取り巻く地球環境を中心に、人間と自然との関わりについて考える。
２．ライフサイエンスの立場から、「ものづくり」では環境への配慮が必要となることを理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	学習した知識をベースに分析や推論をすることができる。	学習した内容を理解できる。	学習した内容を理解していない。
評価項目2	自分なりに工夫したノートを作れる。	与えられた情報に基づいたノートを作れる。	信頼できるノートが作れない。
評価項目3	課題に対し、思考に基づいた考察ができる。	課題に対し、調べた内容をまとめることができる。	与えられた課題の意味を理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	生物に共通する体のつくり、自然環境の形成過程と生物の相互関係について考える。
授業の進め方・方法	授業は講義形式で行う。 レポートは随時指示する。
注意点	ノートを工夫して作る。 身近な事柄に対し、観察・分析・整理し、さらに仮説を立てて考えてみるように心掛ける。 ポートフォリオの評価は、レポートなどを含む。 評価割合項目の「その他」は、授業の取り組み方・提出物などを総合的に評価する。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	生物の多様性と共通性１	ガイダンスと生物の主な特徴について理解する。
		2週	生物の多様性と共通性２	生物の形や大きさに多様性のあることを理解する。
		3週	生物の多様性と共通性３	多様性の中に共通性のあることを理解する。
		4週	生物の多様性と共通性４	進化の過程で継承される共通性について理解する。
		5週	生物の多様性と共通性５	細胞研究の歴史と機器性能の発達との関連を理解する。
		6週	生物の多様性と共通性６	細胞の構成と細胞小器官について理解する。
		7週	生物の多様性と共通性７	核のはたらきについて理解する。
		8週	前期中間試験	
	2ndQ	9週	テスト解答と解説 地球上の植生１	植生について理解する。
		10週	地球上の植生２	生活形と相観について理解する。
		11週	地球上の植生３	森林の階層構造と土壌について理解する。
		12週	地球上の植生４	植生内の光条件の違いと遷移の関係について理解する。
		13週	地球上の植生５	遷移とそのしくみについて説明できる。
		14週	地球上の植生６	「バイオーム」の概念を理解する。
		15週	前期期末試験	
		16週	テスト解答と解説 地球上の植生７	テストの解答と解説。バイオームと気候について理解する。
後期	3rdQ	1週	地球上の植生８	世界のバイオームとその分布について説明できる。
		2週	地球上の植生９	日本のバイオームの水平分布、垂直分布について理解する。
		3週	生態系とその保全１	生態系と食物連鎖の関係を理解する。
		4週	生態系とその保全２	炭素の循環と窒素の循環について理解する。
		5週	生態系とその保全３	エネルギーの循環について理解する。
		6週	生態系とその保全４	生態ピラミッドと生態系のバランスについて理解する。
		7週	生態系とその保全５	水界生態系および森林生態系のバランスと保全について理解する。
		8週	後期中間試験	
	4thQ	9週	生態系とその保全６	地球生態系のバランスと保全について理解する。
		10週	生態系とその保全７	外来生物の生態系への影響について理解する。
		11週	生態系とその保全８	生物多様性の保全と必要について理解する。
		12週	人間活動と地球環境の保全１	熱帯林の減少と生物多様性の喪失について理解する。
		13週	人間活動と地球環境の保全２	有害物質の生物濃縮について理解する。

		14週	人間活動と地球環境の保全３	地球温暖化の問題点、原因と対策について理解する。
		15週	後期期末試験	
		16週	テストの解答と解説	テストの解答と解説

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	15	15	100
基礎的能力	70	0	0	0	15	15	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健･体育

科目基礎情報

科目番号	0011	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	現代高等保健体育　大修館書店		
担当教員			

到達目標

1.日常的に自己の体調管理を行い、授業を受けるために必要なコンディションを維持することができる。また、担当教員や仲間と協力し、主体的かつ安全に活動を実行できる。
2.体力テスト及びマラソン大会の記録や順位により、自己の体力水準と課題を認識し、体力の維持増進を図れる。また、バドミントン及びサッカーの基礎的技術を習得し、ルールを理解してゲームを実行できる。
3.保健で取り上げられた各項目の基礎知識について説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	欠席、遅刻、早退および見学がほとんどなく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。	欠席、遅刻、早退および見学が少なく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。	欠席、遅刻、早退および見学が多い。または、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられる。
評価項目2	体力テスト及びマラソン大会において高いレベルの記録を出すことができる。バドミントン及びサッカーの基礎的技術を習得するとともに、ルールを理解できる。	体力テスト及びマラソン大会の記録や順位がやや低くても、改善しようとする姿勢がみられる。バドミントン及びサッカーの基礎的技術概ね習得するとともに、ルールを理解できる。	体力テスト及びマラソン大会の記録や順位が著しく低く、改善しようとする姿勢がみられない。または、バドミントン及びサッカーの基礎的技術がほとんど習得できておらず、ルールも理解できていない。
評価項目3	「スポーツの技術と戦術」、「効果的な動きのメカニズム」「技能と体力」「体力トレーニング①」「体力トレーニング②」の5項目中4項目以上説明できる。	「スポーツの技術と戦術」、「効果的な動きのメカニズム」「技能と体力」「体力トレーニング①」「体力トレーニング②」の5項目中3項目以上説明できる。	「スポーツの技術と戦術」、「効果的な動きのメカニズム」「技能と体力」「体力トレーニング①」「体力トレーニング②」の5項目中3項目以上説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	体育実技と保健の講義を行う。 体育実技では、基礎体力の維持増進を図るとともに、各スポーツ競技を楽しむための基礎的技術の習得及びルールの理解を通してゲームや記録測定を行う。 保健の講義では、スポーツの技術やトレーニングに関連した項目について学ぶ。
授業の進め方・方法	体育実技は、主にグランドや体育館にて行う。準備運動に続いて、その日の主要課題を行う。 保健の講義は、主にクラスルームにて行う。
注意点	･評価の50%は態度(出席状況及び授業態度)である。日常的に体調管理をしっかり行い、良い身体コンディションで授業に臨むこと。また、真面目に取り組むこと。 ･授業計画や評価方法は、天候等の事情により変更することがありうる。 ･実技の授業時には、運動に適した服装･シューズ及び着替えを準備すること。保健の授業時には、教科書を準備すること。 ･安全面に注意するとともに、体調不良時には、早めに担当教員に申し出ること。 ･日常的に規則正しい生活を心がけ、健康状態の維持及び体力の維持増進を図っておくこと。また、体育･スポーツ分野及び保健衛生分野に関する時事問題に関心を持ち、それらについて自分なりの考えを持っておくこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	体力テスト(屋外種目)	昨年度の記録を上回る。
		2週	体力テスト(屋内種目)	昨年度の記録を上回る。
		3週	バドミントン(グリップ、クリア、ミニゲーム)	正しいグリップで回内･回外動作をできる。
		4週	バドミントン(クリア、スマッシュ、ミニゲーム)	クリアとスマッシュを打ち分けることができる。
		5週	バドミントン(ドライブ、ダブルスルール確認)	ドライブでラリーを続けることができる。
		6週	バドミントン(ダブルスゲーム①)	ダブルスのルールを理解してゲームを実行できる。
		7週	バドミントン(ダブルスゲーム②)	ダブルスのルールを理解してゲームを実行できる。
		8週	バドミントン(ダブルスゲーム③)	サーブを確実に相手のサービスコートに打つことができる。
	2ndQ	9週	バドミントン(ダブルスゲーム④)	サーブレシーブを確実に相手コートに返すことができる。
		10週	バドミントン(ダブルスゲーム⑤)	サイド･バイ･サイド･フォーメイションを実行できる。
		11週	バドミントン(ダブルスゲーム⑥)	トップ･アンド･バック･フォーメイションを実行できる。
		12週	バドミントン(ダブルスゲーム⑦)	ダイアゴナル･フォーメイションを実行できる。
		13週	バドミントン(ダブルスゲーム⑧)	チームの特徴を生かしたフォーメイションを選択できる。
		14週	バドミントン(ダブルスゲーム⑨)	チームの特徴を生かしたフォーメイションを選択できる。
		15週	前期総括	前期の反省点を確認し、後期に生かすイメージを持てる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	サッカー（キックの練習とルールの確認）	インサイドキック、アウトサイドキックでボールを正確に蹴る。 授業におけるサッカーのルールを確認する

		2週	サッカー（シュートの練習とフォーメーションの確認）	正確にゴールの枠内にシュートができる。 FW,MF,DF、GKのフォーメーションを理解できる。
		3週	サッカー（ゲームの実践①）	パスを繋げることができる。
		4週	サッカー（ゲームの実践②）	オフサイドを理解して攻撃することができる。
		5週	サッカー（ゲームの実践③）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		6週	保健（スポーツの技術と戦術）	技術と技能の意味を理解できる。 戦術、作戦、戦略の意味を理解できる。
		7週	サッカー（ゲームの実践④）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		8週	保健（効果的な動きのメカニズム）	スポーツにおける動きのメカニズムを理解できる。
	4thQ	9週	サッカー（ゲームの実践⑤）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		10週	保健（技能と体力）	スポーツを効果的に行うために技能と体力の関係を理解できる。
		11週	サッカー（ゲームの実践⑥）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		12週	保健（体力トレーニング①）	体力トレーニングの基礎理論、進め方を理解できる。
		13週	サッカー（ゲームの実践⑦）	チームのフォーメーションを理解してゲームができる。
		14週	保健（体力トレーニング②）	筋力トレーニング、持久力トレーニング、調整力・柔軟性トレーニングの内容を理解できる。
		15週	総括	次年度の自己の健康及び体力増進をイメージできる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	7	0	0	50	0	43	100
基礎的能力	7	0	0	0	0	0	7
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	50	0	43	93

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語Ｂ

科目基礎情報

科目番号	0013	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	22 STEPS to ENGLISH GRAMMAR（山口書店） / 22 STEPS to RNGLISH GRAMMAR WORKBOOK（山口書店）/ SAILING ENGLISH CONVERSATION WORKBOOK（啓林館）		
担当教員			

到達目標

1. 中学校で学んだ文法事項を正確に理解できる。
2. 英文法に関する演習問題に取り組み、的確な解答を導くことができる。。
3. 総合問題にも取り組み、英語運用能力の向上をはかる。
4. 聴解演習を行い、教材の内容を正確に把握することができる。
5. ペアワークなどを通じて、コミュニケーション能力の充実をはかる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安4	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	文法知識を習得し、正確な英文を書くことができる。	文法知識を習得し、演習問題を解くことができる。	文法知識が乏しく、演習問題を理解することができない。
評価項目2	自分の身の回りのことや考えを英語を使って表現できる。	自分の身の回りのことを平易な英語を使って表現できる。	平易な英文を書いたり、口頭で発表することができない。
評価項目3	英語での指示や質問の内容を理解し、正確に応答できる。	英語での指示や質問の内容を大まかに理解し、ある程度反応できる。	英語での指示や質問に反応することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	1 「英語Ｂ」は「文法」と「ＬＬ」の２つの内容で構成され、それぞれ週に１時間ずつ開講される。 2 「文法」においては、昨年度より継続して英文法に特化した講義を行い、演習問題にあたる。 3 「ＬＬ」では、ＬＬ教室において、昨年度の教科書をさらに発展させ、聴解演習や総合問題演習を行う。
授業の進め方・方法	1 「文法」では、文法事項の解説をもとにして演習を行う。 2 授業中の発表も評価対象になる。そのため、授業への積極的な参加が求められる。 3 「ＬＬ」では、リスニングの演習を繰り返し行い、充実した聴解能力の育成を目指す。 4 「英語Ｂ」では中間試験・期末試験を実施する。「ＬＬ」においては、定期的に確認テストを実施し、評価の対象とする。
注意点	1 「文法」と「ＬＬ」では扱う教材が異なるため、常に準備しておかなければならない。 2 「ＬＬ」ではＬＬ教室で開講するため、速やかに教室移動を行う。 3 「英語Ｂ」の評価については、「文法」５０%、「ＬＬ」５０%とする。 4 「文法」の評価割合は、試験３０%、発表１０%、態度１０%とする。 5 「ＬＬ」の評価割合は、発表１０%、態度１０%、ポートフォリオ３０%とする。 6 ポートフォリオには、確認テストなどを含む。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	Orientation Introduction (22 STEPS) Warm-up 1 (Sailing)	授業の進め方などの説明を聞き、授業に臨む態度を確立させる。「ＬＬ」では、ＬＬ教室の機器の使い方を確認する。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		2週	Ch.1　５つの文構造(1) Warm-up (2)	S+V, S+V+C, S+V+Oの文構造を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		3週	Ch.2　5つの文構造(2) Lesson 1 What Day Is Convenient for You?	S+V+O+O, S+V+O+Cの文構造を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		4週	Ch.3　基本時制 Lesson 1 What Day Is Convenient for You?	基本時制（現在、過去、未来）を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。
		5週	Ch.4　進行形 Lesson 2 How Was Last Sunday?	進行形（現在、過去、未来）を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		6週	Ch. 5　完了形　まとめ Lesson 2 How Was Last Sunday?	完了形（現在、過去）を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。
		7週	Ch. 6　態(1) Lesson 3 Could I Have an Extra Blanket?	受動態の基本的な用法を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	試験返却・解答	
		10週	Ch. 7　態(2) Lesson 3 Could I Have an Extra Blanket?	受動態の応用を身につけ、さらに高度な演習問題を解くことができる。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。

		11週	Ch. 8　助動詞(1) Lesson 4 Who's Calling, Please?	can, may, must, wouldの用法を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		12週	Ch. 9　助動詞(2)　まとめ Lesson 4 Who's Calling, Please?	should, need, used to, 助動詞+have+過去分詞の用法を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。
		13週	Ch. 10　動名詞(1) Lesson 5 How Can I Get There?	動名詞の基本的な用法を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		14週	Ch. 11　動名詞(2)　まとめ Lesson 5 How Can I Get There?	動名詞の応用を身につけ、さらに高度な演習問題を解くことができる。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	
後期	3rdQ	1週	Ch. 12　不定詞(1) Lesson 6 May I Help You?	不定詞（名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法）を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		2週	Ch. 13　不定詞(2) Lesson 6 May I Help You?	不定詞（独立不定詞、否定表現、意味上の主語）を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。
		3週	Ch. 14　不定詞(3) Lesson 7 You Look Nice in That Dress!	不定詞（時制、原形不定詞、慣用表現）を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		4週	Ch. 15　分詞(1) Lesson 7 You Look Nice in That Dress!	分詞の基本的な用法を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。
		5週	Ch. 16　分詞(2)　まとめ Lesson 8 I'm Not Feeling Well	分詞の応用（分詞構文、独立分詞構文）を理解し、さらに高度な演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		6週	Ch. 17　関係詞(1) Lesson 8 I'm Not Feeling Well	関係詞の基本的な用法を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。
		7週	Ch. 18　関係詞(2) Lesson 9 I Want to Be a Diplomat	関係詞の応用を身につけ、さらに高度な演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却・解答	
		10週	Ch. 19　比較(1) Lesson 9 I Want to Be a Diplomat	比較の基本的な用法（原級、比較級、最上級）を正しく理解し、演習問題を解くことができる。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。
		11週	Ch. 20　比較(2)　まとめ Lesson 10 Do You Share the Housework?	比較の応用や慣用句などを身につけ、さらに高度な演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		12週	Ch. 21　仮定法(1) Lesson 10 Do You Share the Housework?	仮定法の基本的な用法（仮定法過去、仮定法過去完了）を理解し、演習問題を解くことができる。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。
		13週	Ch. 22　仮定法(2) Listening Test	仮定法の応用や慣用句などを身につけ、さらに高度な演習問題を解くことができる。 基本的な語いを確認しながらリスニング演習を行うことができる。
		14週	補章　Exercises Listening Test	接続詞や前置詞などの発展問題に対応できるような知識を身につける。 リスニング演習を行いながら、ライティングやスピーキングの演習を行う。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30	20	0	20	30	0	100
基礎的能力	30	20	0	20	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	現代社会

科目基礎情報

科目番号	0003	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教育	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	高校現代社会（実教出版）および自主作成資料		
担当教員			

到達目標

①現代の社会を理解するための基礎的・基本的な知識を身につけることができる。
②現代社会のさまざまな事象を主体的にとらえ、それらの要因、背景、影響を多面的に考察し、理解を深めることができる。
③現代社会のさまざまな課題について主体的にとらえ、人としてのよりよい生き方やあり方を考え、より望ましい行動をとることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 基礎的な知識	現代社会を理解するための基本的なことがらについて説明できる。	現代社会を理解するための基本的なことがらについての理解を深めることができる。	現代社会を理解するための基本的なことがらについての理解が深められない。	
評価項目2 多面的な考察と理解	現代社会のさまざまな事象について多面的に説明することができる。	現代社会のさまざまな事象を多面的に考察し、理解を深めることができる。	現代社会の今日的な事象について多面的に考察したり、理解を深めたりすることができない。	
評価項目3 主体的な行動	現代社会のさまざまな課題について主体的にとらえ、望ましい行動をとることができる。	現代社会のさまざまな課題について主体的にとらえ、望ましい行動への意識がもてるようになる。	現代社会のさまざまな課題について主体的にとらえることができない。	

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	現代社会のさまざまな事象を理解するためには、基礎的・基本的なことがらを身に付けることが必要です。講義を通じて、これらの基礎的・基本的なことがらを身につけていきます。また、そのうえで、具体的な現代社会のさまざまな事象について、その原因、背景、影響等をいろいろな角度から考え、考察していきます。そのためには、新聞、テレビなどのニュースを通じて、今おこっている社会のできごとに積極的に目を向けることが必要です。また、講義を通して、現代社会に様々な課題がある状況の中で、人としてどのように考え、どのような行動をとるのかについての手がかりを見つけ、望ましい行動がとれるようになることを目指します。
授業の進め方・方法	教科書を手がかりにして、現代社会のさまざまなできごとについて把握し、それに関係する基礎的・基本的な内容について理解し、身に付けることを基本とします。また、現在進行している社会現象や社会の変化についても、実際の新聞報道などをもとに学んでいきます。
注意点	現代の社会では、常にさまざまな事象が発生し、進行していきます。そのような現代社会を理解するためには、基礎的・基本的なことがらを確実に身に付けることが欠かせません。進んでこれらの基礎的・基本的なことがらを理解し、身につけるようにしてください。また、常に新聞やテレビなどの報道などに関心を持ち、常に社会事象について、その原因、背景、影響等をいろいろな角度から考え、考察していくことも大切です。そのうえで、現代社会のさまざまな課題について主体的にとらえ、望ましい行動がとれるようになることが一層大切です。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション　現代社会と環境問題	・「現代社会」の学習の目的と意義について理解する。 地球環境問題のあらましを把握する。
		2週	現代社会と環境問題（１）	・「生態系」とは何かを知るとともに、生態系の保全の重要性について理解する。
		3週	現代社会と環境問題（２）	・「生態系」にかかわる課題を学習し、生態系の保全の重要性について考察する。
		4週	地球環境問題と地球温暖化（１）	・地球温暖化とは何かを知るとともに、その原因について理解する。
		5週	地球環境問題と地球温暖化（２）	・地球温暖化の進行がどのような状況を招くのかを知るとともに、地球温暖化と私たちの生活とのかかわりについて理解する。
		6週	地球環境問題とオゾン層の破壊	・オゾン層とその破壊の状況について知るとともに、その原因について理解し、国際的な取り組みについて理解する。
		7週	生態系と野生の生物種の保護	・生態系の保護、野生の生物種にかかわるさまざまな課題と国際的な取り組みについて理解する。
		8週	前期中間テスト	
	2ndQ	9週	テスト返却・復習　砂漠化の進行	・砂漠化とは何かを知るとともに、砂漠化の状況を把握し、その原因について考察する。
		10週	地球環境問題と国際的な取り組み（１）	・地球環境問題に関する国際的な取り組みの目的とその取り組み内容について理解する。
		11週	地球環境問題と国際的な取り組み（２）	・地球環境問題に関するさまざま国際的な取り組みについての理解を進める。
		12週	地球環境問題と国際的な取り組み（３）	・地球環境問題に関する様々な課題について知るとともに、その解決のみちすじについて考察する。
		13週	資源・エネルギー問題（１）	・現代社会とそれを支える資源やエネルギー問題の現状について理解する。
		14週	資源・エネルギー問題（２）	・現代社会とそれを支える資源やエネルギー問題の現状についての理解を深める。
		15週	前期期末テスト	

		16週	テスト返却・復習　資源・エネルギー問題（３）	・現代社会とそれを支える資源やエネルギー問題の課題について考察する。
後期	3rdQ	1週	生命科学の進歩や技術の開発（１）	・生命科学の進歩や技術の進展の現状について把握する。
		2週	生命科学の進歩や技術の開発（２）	・生命科学の進歩や技術の進展の現状にかかわる課題について理解する。
		3週	先端医療の現状と課題（１）	・先端医療の進歩や技術の進展の現状にかかわる課題について理解する。
		4週	先端医療の現状と課題（２）	・先端医療の進歩や技術の進展の現状にかかわる課題についての理解を進める。
		5週	遺伝子にかかわる技術の進歩（１）	・遺伝子にかかわる技術の進展の現状と課題について理解する。
		6週	遺伝子にかかわる技術の進歩（２）	・遺伝子にかかわる技術の進展の現状と課題についての理解を進める。
		7週	遺伝子にかかわる技術の進歩（３）	・遺伝子にかかわる技術の進展の現状と課題について多面的に考察する。
		8週	後期中間テスト	
	4thQ	9週	テスト返却・復習　　高度情報化社会の進展と現状（１）	・高度情報化社会の現状について理解する。
		10週	高度情報化社会の進展と現状（２）	・高度情報化社会の現状についての理解を深める。
		11週	高度情報化社会の現状と課題（３）	・高度情報化社会のさまざま課題について把握する。
		12週	高度情報化社会の現状と課題（４）	・高度情報化社会の現状とさまざまな課題について考察する。
		13週	高度情報化社会の現状と課題（５）	・高度情報化社会の現状とさまざまな課題について多面的に考察する。
		14週	高度情報化社会の現状と課題（６）	・高度情報化社会の現状とさまざまな課題について多面的に考察する。
		15週	後期期末テスト	
		16週	テスト返却・復習　現代社会の課題と私たちの生活	・一年間の学習をふりかえり、現代社会の課題と今後の自分の生き方についての考えを深める。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語（3年）

科目基礎情報

科目番号	0164	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	『国語要覧』『現代文学名作選』		
担当教員	豊田 尚子		

到達目標

１．国語常識を養い、語彙能力を向上させる。
２．文学史を学習し、文化的な知見を増やす。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	国語常識問題に対して、発展的な初出問題に対応できる。	国語常識問題に対して、授業で学習した範囲については対応できる。	国語常識問題に対して、授業で学習した内容について答えられない。
評価項目2	近現代文学史の作家と作品について特徴を捉え、説明できる。	近現代文学の作家と作品について、特徴を捉えることができるる	近現代文学の作家と作品について、正しく特徴を捉えることができない。
評価項目3	中古の文学作品について特徴を捉え、説明できる。	中古の文学作品について特徴を捉えることができる。	中古の文学作品について特徴を捉えることができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	国語常識問題は、年間を通じて、対義語・類義語・語句の関係性・語句の意味・故事成語・ことわざ・慣用句・文章整序等の練習問題に取り組む。これは、社会人として必要な基礎学力につなげることを目標とする。また、文学史を学ぶことにより、今後多くの文学作品に触れたとき、鑑賞力を高める一助となることを目指す。
授業の進め方・方法	①授業は基本的に、授業時間の前半を国語常識問題、後半を文学史の講義、という二部構成で行う。 ②毎回の授業開始時に、国語常識問題に取り組む。このプリントは、テストでも提出物でもないが、定期試験・確認テストの範囲となる。まじめに取り組むこと。また、配布したプリントは自分で管理すること。 ③前項②の確認テストは、前期・後期にそれぞれ１回ずつ実施する。国語常識問題のプリントにある語句は正しく読めるようにしておくこと。 ④授業の後半は、文学史の講義となる。ノートを取るのは当然のことであるので、ノート提出やノート点検は加点材料とはならない。
注意点	①前期・後期ともに、「中間試験」「期末試験」「確認テスト」の３つをほぼ同等とみなして成績を算出する。 ②評価割合の「その他」の４０は、基本的に、確認テストの割合３０と、定期試験後の授業内で作成する課題プリントの10を足した数値とする。 ③評価割合で、「態度」に数値を記入していないが、テストに反映するとみなしているからである。著しく注意喚起を促される状態では、おそらくテストに対応できない。また、問題があれば、「その他」の項目で対応する。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス 国語常識模擬問題	年間の授業計画と授業の進め方についての説明を聞く。 国語常識問題の模擬問題に挑戦し、現時点での自分のランクを把握する。
		2週	国語常識問題〈対義語と類義語〉① 近現代文学史①	・国語常識問題〈対義語と類義語〉に取り組む。 ・近現代文学史の全体の流れを復習し、それぞれの特徴を確認する。
		3週	国語常識問題〈対義語と類義語〉② 近現代文学史②	・国語常識問題〈対義語と類義語〉に取り組む。 ・写実主義から自ｂ然主義までの作家と作品について復習する。
		4週	国語常識問題〈対義語と類義語〉③ 近現代文学史③	・国語常識問題〈対義語と類義語〉に取り組む。 ・反自然主義から新心理主義までの流れと特徴を学ぶ。
		5週	国語常識問題〈対義語と類義語〉④ 近現代文学史④（森鴎外と夏目漱石）	・国語常識問題〈対義語と類義語〉に取り組む。 ・反自然主義余裕派の作家について学ぶ。
		6週	国語常識問題〈対義語と類義語〉⑤ 近現代文学史⑤（森の作品）	・国語常識問題〈対義語と類義語〉に取り組む。 ・反自然主義余裕派の作品について学ぶ。
		7週	近現代文学史⑥（夏目の作品）	・反自然主義余裕派の作品について学び、その代表的な作品を鑑賞し、その特徴をつかむ。
		8週	前期中間試験	今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。
	2ndQ	9週	試験の解答と解説	試験問題について、正しい解答の導き方を確認する。
		10週	国語常識問題〈２語の関係〉① 近現代文学史⑦	・国語常識問題〈２語の関係〉に取り組む。 ・反自然主義耽美派の作家について学ぶ。
		11週	国語常識問題〈２語の関係〉② 近現代文学史⑧	・国語常識問題〈２語の関係〉に取り組む。 ・反自然主義耽美派の作品について学ぶ。
		12週	国語常識問題〈２語の関係〉③ 近現代文学史⑨	・国語常識問題〈２語の関係〉に取り組む。 ・反自然主義白樺派の作家について学ぶ。
		13週	国語常識問題〈２語の関係〉④ 近現代文学史⑩	・国語常識問題〈２語の関係〉に取り組む。 ・反自然主義白樺派の作品について学ぶ。
		14週	国語常識問題の確認テスト 近現代文学史⑪	・今までの国語常識問題の範囲で確認テストに取り組む。 ・反自然主義耽美派、白樺派の代表的な作品を鑑賞し、その特徴をつかむ。

		15週	前期定期試験	今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。
		16週	試験の解答と解説	試験問題について、正しい解答の導き方を確認する。
後期	3rdQ	1週	国語常識問題〈語句の意味〉① 近現代文学史⑫	・国語常識問題〈語句の意味〉に取り組む。 ・新現実主義の作家と作品について学ぶ。（菊池寛）
		2週	国語常識問題〈語句の意味〉② 近現代文学史⑬	・国語常識問題〈語句の意味〉に取り組む。 ・新現実主義の作家とについて学ぶ。（芥川龍之介その１）
		3週	国語常識問題〈語句の意味〉③ 近現代文学史⑭	・国語常識問題〈語句の意味〉に取り組む。 ・新現実主義の作家について学ぶ。（芥川龍之介その２）
		4週	国語常識問題〈語句の意味〉④ 近現代文学史⑮	・国語常識問題〈語句の意味〉に取り組む。 ・新現実主義の作品について学ぶ。（芥川龍之介その３）
		5週	国語常識問題〈語句の意味〉⑤ 近現代文学史⑯	・国語常識問題〈語句の意味〉に取り組む。 ・新現実主義の作品について学ぶ。（芥川龍之介その４）
		6週	国語常識問題〈語句の意味〉⑥ 近現代文学史⑰	・国語常識問題〈語句の意味〉に取り組む。 ・新現実主義の代表的な作品を鑑賞し、その特徴をつかむ。
		7週	近現代文学史⑱ 近現代文学史⑱	・新現実主義のまとめとその後の作品について学ぶ。
		8週	後期中間試験	今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。
	4thQ	9週	試験の解答と解説	試験問題について、正しい解答の導き方を確認する。
		10週	国語常識問題〈文章整序・その他〉① 古典文学史①（中古の文学概観）	・国語常識問題〈文章整序・その他〉にとりくむ。 ・中古文学について、時代背景と作品の全体的な特徴を学ぶ。
		11週	国語常識問題〈文章整序・その他〉② 古典文学史②（中古の物語）	・国語常識問題〈文章整序・その他〉にとりくむ。 ・中古文学について、代表的な物語の特徴を学ぶ。
		12週	国語常識問題〈文章整序・その他〉③ 古典文学史③（中古の歌集）	・国語常識問題〈文章整序・その他〉にとりくむ。 ・中古文学について、八代集を中心に作品の特徴を学ぶ。
		13週	国語常識問題〈文章整序・その他〉④ 近現代文学史④（中古の日記）	・国語常識問題〈文章整序・その他〉にとりくむ。 ・中古文学について、日記の筆者と作品の特徴を学ぶ。
		14週	国語常識問題の確認テスト 近現代文学史⑤（中古まとめ）	・今までの国語常識問題の確認テストにとりくむ。 ・中古文学の総まとめとして、全体的な特徴を確認する。
		15週	後期定期試験	今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。
		16週	試験の解答と解説	試験問題について、正しい解答の導き方を確認する。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	６０	0	0	0	0	４０	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	現代社会

科目基礎情報

科目番号	0165	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	数研出版『高等学校現代社会』（2年次に使ったものをそのまま使用する。）		
担当教員			

到達目標

・実社会に関心を持ち、これからの社会を担っていく主権者としての自覚を養う。
・政治・経済に関する基本的な知識を身につける。
・現代社会において生じる様々な問題について、主体的に考察し、多角的な観点から捉える力を身につけると共に、自身の意見を論理的に記述できる能力を身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
実社会に関心を持ち、これからの社会を担っていく主権者としての自覚を持っている。	現代社会における諸問題に対し、当事者意識を持ち、きちんと自身の意見を持ち、また、行動しようとしている。	現代社会における諸問題に対し、当事者意識を持っている。	現代社会における諸問題に対し、当事者意識を持っていない。
現代の社会の仕組みについて、基本的な事柄を理解している。	学習した事項について十分な知識を有している。	学習した事項についてひととおりの知識を有していない。	学習した事項についての知識が不十分である。
現代社会における諸問題について、自身の意見を論理的かつ的確に表現できる。	現代社会における諸問題に対する自身の意見を十分な根拠を挙げ、論理的に表現することができる。	現代社会における諸問題に対する自身の意見を持ち、その理由を挙げることができる。	

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	・これからの社会を担う主権者として必要な素養、すなわち、現代の社会がどのような仕組みで動いているのかについて学ぶ。
授業の進め方・方法	・基本的には講義形式で行うが、回によっては、グループワークや、個人での口頭発表などを取り入れる場合がありうる。学生の積極的な参加を期待する。
注意点	・成績評価については、以下のとおりであるが、学年末の成績が60点未満の者について、別途課題等を与えるなどしたうえで、学習の成果が見られた場合は、単位取得を考えることがある。 ・高校生の年齢であるとはいえ、高専生である以上、高等教育機関の「学生」として振る舞うこと。 ・自分の頭で考えること。 ・友人と議論するなどして様々な考えに触れること。 他者の意見にきちんと耳を傾けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	オリエンテーション	この授業の目標、授業計画、評価方法、受講上の注意点を認識する。
		2週	青年期の意義と課題	青年期が、人生においてどのような意味を持つのかを認識し、自身が青年期をいかに過ごすか考える。
		3週	法と社会	社会における法の意義や法の種類についての知識を身につける。
		4週	民主政治における個人と国家	国家とはどのようなものか知る。
		5週	民主政治の原理とその展開	社会契約説の政治思想上の意義や権力分立の意義について知る。
		6週	民主主義の展開と法の支配	法の支配とはどのような概念か認識する。
		7週	前期前半のまとめ	既習事項を復習し、これまで学習した内容について理解を深める。
		8週	中間試験	合格点をとる。
	2ndQ	9週	世界の主な政治体制	外国の政治システムについて知る。
		10週	明治憲法と日本国憲法	大日本帝国憲法と日本国憲法の違いについて知る。
		11週	基本的人権の性格と平等権	法の下の平等という概念について知る。
		12週	基本的人権と自由権	自由権について学ぶ。
		13週	社会権・参政権・請求権・新しい人権	社会権、参政権、請求権、新しい人権について知る。
		14週	前期後半のまとめ	既習事項を復習し、これまで学習した内容について理解を深める。
		15週	定期試験	合格点をとる。
		16週	答案返却・試験解説	前期の現代社会の学習への取り組みを振り返り、後期の学習に備える。
後期	3rdQ	1週	平和主義	日本国憲法第9条の理念やそれをめぐる諸問題について知る。
		2週	国会のしくみと役割	国会の役割について知る。
		3週	内閣のしくみと役割	内閣の役割について知る。
		4週	裁判所の役割	裁判所の役割について知る。裁判員制度の概要を知り、自身も裁判員として携わることになるかもしれないという自覚を持つ。
		5週	地方自治の現状と課題	地方自治制度の概要を知る。
		6週	政党の役割	民主政治における政党の存在意義について知る。
		7週	後期前半のまとめ	既習事項を復習し、これまで学習した内容について理解を深める。

		8週	中間試験	合格点をとる。
	4thQ	9週	選挙と選挙制度	選挙制度の概要を知る。
		10週	国際社会と国際法	国際法について知る。
		11週	国際社会と集団安全保障体制	国際連盟が作られた背景と失敗した理由について知る。
		12週	国際連合の役割と課題	国際連合の仕組みについて学ぶ。
		13週	公害の発生と防止	公害対策について学ぶ。
		14週	社会保障制度	社会保障制度の概要について知る。
		15週	定期試験	合格点をとる。
		16週	答案返却・試験解説 １年間のまとめ、来年度の授業の展望	1年間の学習を振り返り、これからの社会を担っていく主権者としての自覚を深める。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	微分積分Ａ

科目基礎情報

科目番号	0166	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	矢野，石原：微分積分 改訂版，裳華房		
担当教員			

到達目標

1. 分数・無理・三角・指数・対数関数の不定積分・定積分に関する基本的な問題を解くことができる。
2. 置換積分および部分積分を用いて、不定積分・定積分び関する基本的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	分数・無理・三角・指数・対数関数の不定積分・定積分に関する応用的な問題を解くことができる。	分数・無理・三角・指数・対数関数の不定積分・定積分に関する基本的な問題を解くことができる。	分数・無理・三角・指数・対数関数の不定積分・定積分に関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	置換積分および部分積分を用いて、不定積分・定積分び関する応用的な問題を解くことができる。	置換積分および部分積分を用いて、不定積分・定積分び関する基本的な問題を解くことができる。	置換積分および部分積分を用いて、不定積分・定積分び関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	分数関数・無理関数・指数関数・対数関数の不定積分・定積分の求め方について学ぶ。 置換積分・部分積分を利用した不定積分・定積分の求め方について学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。
注意点	微分成分Aは、高等専門学校でこれから学んでいく専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。
		2週	分数関数の不定積分	不定積分の基本公式を用いて、簡単な分数関数の不定積分を求めることができる。
		3週	簡単な無理関数の不定積分	不定積分の基本公式を用いて、簡単な無理関数の不定積分を求めることができる。
		4週	簡単な三角関数の不定積分	不定積分の基本公式を用いて、簡単な三角関数の不定積分を求めることができる。
		5週	簡単な指数・対数関数の不定積分	不定積分の基本公式を用いて、簡単な指数・対数関数の不定積分を求めることができる。
		6週	不定積分の置換積分（１）	置換積分法について理解する。
		7週	不定積分の置換積分（２）	置換積分を用いて、不定積分を求めることができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	試験返却・解答 不定積分の部分積分（１）	部分積分について理解する。
		10週	不定積分の部分積分（２）	部分積分を1回用いて、不定積分を求めることができる。
		11週	不定積分の部分積分（３）	部分積分を複数回用いて、不定積分を求める問題が解ける。
		12週	三角関数の不定積分（１）	三角関数の変形公式を利用して三角関数の不定積分を求める問題が解ける。
		13週	三角関数の不定積分（２）	置換積分を用いて三角関数の不定積分を求める問題が解ける。
		14週	三角関数の不定積分（３）	置換積分を用いて三角関数の不定積分を有理関数の積分に帰着させることが可能な問題が解ける。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	
後期	3rdQ	1週	有理式の部分分数展開	有理式の部分分数分解ができる。
		2週	有理関数の不定積分	部分分数分解を利用して有理関数の不定積分を求める問題が解ける。
		3週	無理関数の不定積分	無理関数の不定積分を求めることができる。
		4週	定積分の定義	定積分の定義を理解している（区分求積法）。
		5週	微積分の基本定理	微積分の基本定理を理解している。
		6週	基本的な定積分の計算（１）	簡単な分数関数・無理関数の定積分を求めることができる。
		7週	基本的な定積分の計算（２）	簡単な三角関数・指数関数の定積分を求めることができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却・解答 定積分の置換積分（１）	置換積分を用いた定積分の計算に関する基本的な問題を解くことができる。

		10週	定積分の置換積分（２）	置換積分を用いた定積分の計算に関する基本的な問題を解くことができる。
		11週	定積分の置換積分（３）	置換積分を用いた定積分の計算に関する基本的な問題を解くことができる。
		12週	定積分の部分積分（１）	部分積分を用いた定積分の計算に関する基本的な問題を解くことができる。
		13週	定積分の部分積分（２）	部分積分を用いた定積分の計算に関する基本的な問題を解くことができる。
		14週	定積分の部分積分（３）	部分積分を用いた定積分の計算に関する基本的な問題を解くことができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	代数･幾何

科目基礎情報

科目番号	0167	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	矢野，石原：線形代数　改定改題，裳華房 / 矢野，石原：問題集　線形代数，裳華房		
担当教員			

到達目標

1. ベクトルに関する基本的な問題を解くことができる。
2. 基本的な空間図形の方程式を求めることができる。
3. 行列と行列式に関する基本的な問題を解くことができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	ベクトルに関する応用的な問題を解くことができる。	ベクトルに関する基本的な問題を解くことができる。	ベクトルに関する基本的な問題を解くことができない。
評価項目2	空間図形の方程式を用いた応用的な問題を解くことができる。	基本的な空間図形の方程式を求めることができる。	基本的な空間図形の方程式を求めることができない。
評価項目3	行列と行列式に関する応用的な問題を解くことができる。	行列と行列式に関する基本的な問題を解くことができる。	行列と行列式に関する基本的な問題を解くことができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	ベクトル、 空間図形の方程式、行列と行列式に関する基本的な事項について学ぶ。
授業の進め方・方法	授業は主として講義形式で行うが、適宜問題演習の時間をとることがある。
注意点	代数幾何は、高等専門学校でこれから学んでいく専門科目の基礎となる科目であり、学習内容をしっかりと身につけることが望まれる。 そのため、授業の復習と、自発的な問題演習に取り組むよう心掛けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	授業の目標や進め方、成績評価の方法について知る。
		2週	平面ベクトル（１）	平面ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算（和・差・定数倍）ができ、大きさを求めることができる。
		3週	平面ベクトル（２）	平面ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		4週	空間ベクトル（１）	空間ベクトルの定義を理解し、ベクトルの基本的な計算（和・差・定数倍）ができ、大きさを求めることができる。
		5週	空間ベクトル（２）	空間ベクトルの成分表示ができ、基本的な計算ができる。
		6週	ベクトルの内積	平面および空間ベクトルの内積を求めることができる。
		7週	ベクトルの平行と垂直	ベクトルの平行・垂直条件を利用することができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	試験返却・解答 空間内の平面の方程式（１）	空間内の平面の方程式を求めることができる。
		10週	空間内の平面の方程式（２）	平行な平面や垂直な平面の方程式を求めることができる。
		11週	空間内の直線の方程式（１）	空間内の直線の方程式を求めることができる。
		12週	空間内の直線の方程式（２）	２つの直線の位置関係について調べることができる。
		13週	球の方程式	空間内の球の方程式を求めることができる。
		14週	平面・直線・球の位置関係	平面・直線・球の位置関係に関する基本的な問題を解くことができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	
後期	3rdQ	1週	行列式の定義	行列式の定義を知る。
		2週	サラスの方法	サラスの方法で3次以下の行列式の値が計算できる。
		3週	行列式の性質	行列式の性質を理解し、行もしくは列に関する展開ができる。
		4週	3次の行列式の計算	行列式の性質を利用して、3次の行列式の値を求めることができる。
		5週	高次の行列式の計算	行列式の性質を利用して、高次の行列式の値を求めることができる。
		6週	連立1次方程式への応用（１）	クラーメルの公式を用いて、2元2連立1次方程式を解くことができる。
		7週	連立1次方程式への応用（２）	クラーメルの公式を用いて、3元3連立1次方程式を解くことができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	試験返却・解答 行列の定義	行列の定義を理解する。

		10週	行列の演算（１）	行列の和・差・数との積の計算ができる。
		11週	行列の演算（２）	行列の積の計算ができる。
		12週	行列と行列式	行列と行列式の関係が理解する。
		13週	逆行列の定義	逆行列の定義を理解する。
		14週	2次の逆行列の計算	2次の正方行列の逆行列を求めることができる。
		15週	期末試験	
		16週	試験返却・解答	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	化学

科目基礎情報

科目番号	0168	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教育	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	化学，センサー化学（新課程用）　（啓林館）		
担当教員			

到達目標

我々の身の回りにある物質やその変化・性質を理解するため、「物質の成り立ち」、「原子の構造とそれから発現する性質」、「化学結合」、「化学反応」などの基礎を修得する項目からなる教育領域である。高校化学要領基礎化学の目標である「日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への感心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う」を基本目標とする。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
科学的概念について	化学と人間生活の関わりについて，科学的概念や化学の法則などを用いて説明できる。	化学と人間生活の関わりについて，用語や概念の誘導をされると説明ができる。	化学と人間生活の関わりについて，説明できない。
物質の構成について	物質の構成について，原子の構造や化学結合の違いから発現する性質を踏まえ説明ができる。	物質の構成について，典型的な例についての説明ができる。	物質の構成について，まったく説明ができない。
物質の変化について	物質の変化について，化学反応やその量的関係の観点について理解ができている。	物質の変化について，典型的な事例については理解できている。	物質の変化について，まったく理解していない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	コアカリキュラムの要求範囲を中心として、今後専門教育を受講するのに必要な内容を理解するのに必要な内容について、指定教科書を用いて講義し、指定問題集を用いて自学自習する。
授業の進め方・方法	試験： 中間・期末試験を前後期計4回を目途に実施する。再試験は最終の試験でのみで実施するので注意すること。 出席： 特別な事由がなく、授業に欠席しないこと。正規または任意の連絡無しに欠席遅刻等があった場合は減点する。 ポートフォリオ： 授業中に指示された小テストや宿題、課題の提出等で確認する。 態度： 授業への集中度が著しく低い場合は，総合点より大きく減点する。 その他： 授業の取り組みや授業内容の理解度などを総合的に評価し決定する。
注意点	学習上の留意点 ・自然の事物・現象に関することを題材にして，基本的な概念，原理，法則を理解するよう務めること。 ・欠席や遅刻，従業への集中度が著しく低い場合は，総合点より大きく減点する。 ・学習事項の練習問題・発展問題などを適宜課題とする。また，既習事項の確認のため小テストを課すことがある。 ・提出物やその他課題についてはそれぞれの指示に従い，提出期限を厳守すること。 ・授業中に他人に危害を加えたり，授業の妨害を行ったりした場合は単位を習得できない。 関連する科目 ・特になし。 学習上の助言 ・教科書や副教材などを用いて，復習を中心とした自学自習を行なうこと。 ・自学自習の際，高校生向け学習参考書全般が参考となるので各自利用すること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	有機化合物 有機化合物の分類と分析 有機化合物の特徴と分類（1）	有機化合物の特徴について説明ができる。
		2週	有機化合物の特徴と分類（2）	有機化合物を炭素原子の結合や官能基の特徴から分類することができる。
		3週	有機化合物の分析（1）	有機化合物の分離と精製について知っている。 有機化合物の成分元素の検出について説明できる。
		4週	有機化合物の分析（2）	元素分析とその概要について知っている。
		5週	有機化合物の分析（3）	有機化合物の元素分析から構造決定について理解できる。
		6週	有機化合物の分析（4）	質量組成から組成式・分子式を求めることができる。
		7週	まとめ　問題演習	
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	答案返却・解答解説	
		10週	飽和炭化水素（1）	アルカンの構造と同族体の名称について理解している。 アルカンの構造異性体や立体異性体について説明ができる。
		11週	飽和炭化水素（2）	アルカンの性質や反応を理解している。
		12週	不飽和炭化水素（1）	アルケンの構造や特徴について説明ができる。 アルケンの反応について理解している。
		13週	不飽和炭化水素（2）	アルキンの構造や特徴について説明ができる。 アルキンの反応について理解している。
		14週	まとめ　問題演習	
		15週	定期試験	
		16週	答案返却・解答解説	
後期	3rdQ	1週	アルコールと関連化合物 アルコールとエーテル（1）	簡単なアルコール化合物を知っている。 アルコールの分類方法について説明ができる。

		2週	アルコールとエーテル（２）	アルコールの性質や反応について説明ができる。
		3週	アルコールとエーテル（３）	代表的なアルコール・エーテルの特徴や反応を理解している。
		4週	アルデヒドとケトン	カルボニル化合物の反応や特徴について説明ができる。
		5週	脂肪族カルボン酸（１）	カルボン酸の構造と性質について説明ができる。 カルボン酸の反応について理解している。
		6週	脂肪族カルボン酸（２）	エステルと油脂の構造と特徴ついて理解している。
		7週	まとめ　問題演習	
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	芳香族炭化水素（１）	ベンゼンとベンゼン環について理解している。 ベンゼン環を持つ化合物の構造異性体を知っている。
		10週	芳香族炭化水素（２）	主な芳香族炭化水素化合物を知っている。 ベンゼンの置換反応について説明ができる。
		11週	フェノール類	フェノール類の構造と性質について説明ができる。 ベンゼン環の反応を利用してフェノールの合成法を説明ができる。
		12週	芳香族カルボン酸	芳香族カルボン酸の構造と性質を説明ができる。
		13週	芳香族アミンとアゾ化合物	芳香族アミンの構造と性質を説明ができる。
		14週	まとめ　問題演習	
		15週	定期試験	
		16週	答案返却・解答解説	

評価割合

	試験	出席	相互評価	ポートフォリオ	態度	その他	合計
総合評価割合	50	10	0	20	0	20	100
基礎的能力	50	10	0	20	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健･体育

科目基礎情報

科目番号	0169	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	一般教育	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	現代高等保健体育　大修館書店		
担当教員			

到達目標

1.日常的に自己の体調管理を行い、授業を受けるために必要なコンディションを維持することができる。また、担当教員や仲間と協力し、主体的かつ安全に活動を実行できる。
2.体力テスト及びマラソン大会の記録や順位により、自己の体力水準と課題を認識し、体力の維持増進を図れる。また、ソフトボール及びバスケットボールの基礎的技術を習得し、ルールを理解してゲームを実行できる。
3.保健で取り上げられた各項目の基礎知識について説明できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	欠席、遅刻、早退および見学がほとんどなく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない	欠席、遅刻、早退および見学が少なく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。	欠席、遅刻、早退および見学が多い。または、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられる。
評価項目2	体力テスト及びマラソン大会において高いレベルの記録を出すことができる。ソフトボール及びバスケットボールの基礎的技術を習得するとともに、ルールを理解できる。	体力テスト及びマラソン大会の記録や順位がやや低くても、改善しようとする姿勢がみられる。ソフトボール及びバスケットボールの基礎的技術概ね習得するとともに、ルールを理解できる。	体力テスト及びマラソン大会の記録や順位が著しく低く、改善しようとする姿勢がみられない。または、ソフトボール及びバスケットボールの基礎的技術がほとんど習得できておらず、ルールも理解できていない。
評価項目3	「ウェイトコントロール」、「意志決定･行動選択」「欲求と適応機制」「ストレス」「自己実現」の5項目中4項目以上説明できる。	「ウェイトコントロール」、「意志決定･行動選択」「欲求と適応機制」「ストレス」「自己実現」の5項目中3項目以上説明できる。	「ウェイトコントロール」、「意志決定･行動選択」「欲求と適応機制」「ストレス」「自己実現」の5項目中3項目以上説明できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	体育実技と保健の講義を行う。 体育実技では、基礎体力の維持増進を図るとともに、各スポーツ競技を楽しむための基礎的技術の習得及びルールの理解を通してゲームや記録測定を行う。 保健の講義では、日常生活に関連した項目について学ぶ。
授業の進め方・方法	体育実技は、主にグランドや体育館にて行う。準備運動に続いて、その日の主要課題を行う。 保健の講義は、主にクラスルームにて行う。
注意点	･評価の50%は態度(出席状況及び授業態度)である。日常的に体調管理をしっかり行い、良い身体コンディションで授業に臨むこと。また、真面目に取り組むこと。 ･授業計画や評価方法は、天候等の事情により変更することがありうる。 ･実技の授業時には、運動に適した服装･シューズ及び着替えを準備すること。保健の授業時には、教科書を準備すること。 ･安全面に注意するとともに、体調不良時には、早めに担当教員に申し出ること。 ･日常的に規則正しい生活を心がけ、健康状態の維持及び体力の維持増進を図っておくこと。また、体育･スポーツ分野及び保健衛生分野に関する時事問題に関心を持ち、それらについて自分なりの考えを持っておくこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	体力テスト（屋内種目）	昨年度の記録を上回る。
		2週	体力テスト(屋外種目)	昨年度の記録を上回る。
		3週	ソフトボール（ピッチングとルール確認）	下手投げでコントロールよく投げることができる。
		4週	ソフトボール（バッティングとゲームの行い方）	投球に対して確実にミートできる。
		5週	ソフトボール（ゲームの実践①）	ルールを確認しながらゲームを進めることができる。
		6週	ソフトボール（ゲームの実践②）	試合の中で捕球・送球が正確にできる。 試合の中でミートよくバッティングができる。
		7週	ソフトボール（ゲームの実践③）	試合の中で捕球・送球が正確にできる。 試合の中でミートよくバッティングができる。
		8週	ソフトボール（ゲームの実践④）	試合の中で捕球・送球が正確にできる。 試合の中でミートよくバッティングができる。
	2ndQ	9週	ソフトボール（ゲームの実践⑤）	試合の中で捕球・送球が正確にできる。 試合の中でミートよくバッティングができる。
		10週	ソフトボール（ゲームの実践⑥）	試合の中で捕球・送球が正確にできる。 試合の中でミートよくバッティングができる。
		11週	種目選択	種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。
		12週	種目選択	種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。
		13週	種目選択	種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。
		14週	種目選択	種目を選択して、仲間と協力しながらゲームができる。
		15週	前期総括	前期の反省点を確認し、後期に生かすイメージを持てる。
		16週		

後期	3rdQ	1週	バスケットボール(基礎技術、3on3)	ディフェンスにカットされないように正確なパスが出せる。
		2週	バスケットボール(基礎技術、3on3)	ディフェンスのプレッシャーがある中でシュートを打てる。
		3週	保健(ウェイトコントロール)	身体組成を理解し、体脂肪率の計算ができる。
		4週	バスケットボール(ゲーム①)	ルールを理解して安全にゲームを実行できる。
		5週	バスケットボール(ゲーム②)	ポジションの種類と役割の概要を理解できる。
		6週	保健(意志決定･行動選択)	PDSサイクルについて説明できる。
		7週	バスケットボール(ゲーム③)	ディフェンスの種類を理解し、チームメイトと協力してゲームを実行できる。
		8週	バスケットボール(ゲーム④)	ディフェンスの種類を理解し、チームメイトと協力してゲームを実行できる。
	4thQ	9週	保健(欲求と適応機制)	欲求の種類について説明できる。
		10週	バスケットボール(ゲーム⑤)	チームメイトと協力して、ゲームの流れの中でディフェンス方法を選択して実行できる。
		11週	保健(ストレス)	ストレスへの対処法を説明できる。
		12週	バスケットボール(ゲーム⑥)	チームメイトと協力して、ゲームの流れの中でディフェンス方法を選択して実行できる。
		13週	保健(自己実現)	自らの自己実現について文章にまとめることができる。
		14週	保健(復習)	各項目の要点を理解し、試験勉強を実行できる。
		15週	総括	次年度の自己の健康及び体力増進をイメージできる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	7	0	0	50	0	43	100
基礎的能力	7	0	0	0	0	0	7
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	50	0	43	93

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	総合英語

科目基礎情報

科目番号	0170	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 4
開設学科	一般教育	対象学年	3
開設期	通年	週時間数	4
教科書/教材			
担当教員			

到達目標

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1			
評価項目2			
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	
授業の進め方・方法	
注意点	

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	2ndQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		
後期	3rdQ	1週		
		2週		
		3週		
		4週		
		5週		
		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学

科目基礎情報

科目番号	0043	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教育	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	1
教科書/教材	指定なし		
担当教員			

到達目標

1. 様々な哲学者の思想に触れることによって、人間とはいかなる存在か、人としていかに生きるべきか、社会とどのように関わるべきかといった諸問題について、これまでの宗教や哲学がどのように考えてきたかを学び、これからの社会生活でものごとを判断するための幅広い視野を身につける。
2. 授業に集中し、必要な知識を身につけることができる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	授業であつかった哲学の概要や当時の社会の状況をよく理解し、主要な事項について十分な説明ができ、発展的な問題を作成することができる。	授業であつかった哲学の概要や当時の社会の状況を理解し、主要な事項について説明ができる。	授業であつかった哲学の概要や当時の社会の状況が理解できない。
評価項目2	主体的な関心を持って授業に取り組み、自らが調べたことを加えて、わかりやすく授業ノートをまとめることができる。	関心を持って授業に取り組み、わかりやすく授業ノートをまとめることができる。	授業に関心を持たない。他人がみて内容を理解できる授業ノートを作成できない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	ヨーロッパ近代の哲学者を中心として、様々な哲学者の人生を通じて、哲学者の思想が世界を理解したいという当人の欲求の産物であると同時に、当時の社会の動きと密接に結びついていたことを学ぶ。
授業の進め方・方法	・授業は講義形式を中心とする。 ・試験の際に、それまでの授業の内容をA4用紙1枚にまとめ、提出すること。まとめの工夫をポートフォリオとして成績の評価対象とする。
注意点	・日頃から新聞やニュースに目を通し、現在、日本や世界で起こっていることについて、広い関心を持つこと。 ・ノートをとる際には、黒板を書き写すだけでなく、気づいたことや説明などのメモを加え、後から振り返ったときに役に立つ独自のノートを目指すこと。 ・成績評価は評価割合に準拠するが、授業中の居眠りなどが甚だしい場合には、減点することもある。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス：哲学とは何か	哲学と宗教との関係について説明できる。
		2週	古代ギリシアの哲学者（1）	ソクラテス以前の哲学の概略が説明ができる。
		3週	古代ギリシアの哲学者（2）	ソクラテスの哲学の概略が説明ができる。
		4週	古代ギリシアの哲学者（3）	プラトン、アリストテレスの哲学の概略が説明ができる。
		5週	中世の世界観	中世のキリスト教会の世界観について説明できる。
		6週	17世紀科学革命	17世紀科学革命が哲学に与えた影響について説明できる。
		7週	デカルト（1）	大陸合理論について説明できる。
		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
	2ndQ	9週	試験返却・解答	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。
		10週	デカルト（2）	デカルトが世界をどのように認識していたかを説明できる。
		11週	デカルト（3）	機械論的世界観とその影響について説明できる。
		12週	ホッブズ（1）	17世紀イギリス革命の時代背景について説明できる。
		13週	ホッブズ（2）	「自然状態」「万人の万人に対する戦い」について説明できる。
		14週	ホッブズ（3）	ホッブズの社会契約論について説明できる。
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
		16週	試験返却・解答	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。
後期	3rdQ	1週	ロック（1）	ロックの社会契約論と、イギリスの名誉革命との関係が説明できる。
		2週	ロック（2）	ロックの社会契約論と、ホッブズの社会契約論との比較ができる。
		3週	ロック（3）	プラトンのイデア論と比較して、ロックの「タブラ・ラサ」の考え方を説明できる。
		4週	ヒューム（1）	イギリス経験論について説明できる。
		5週	ヒューム（2）	ヒュームの懐疑論について説明できる。
		6週	ヒューム（3）	ヒュームの問題意識について説明できる。
		7週	ヒューム（4）	ヒュームの社会契約論批判について説明できる。

		8週	中間試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
	4thQ	9週	試験返却・解答 啓蒙思想と百科全書派（1）	18世紀の啓蒙思想の基本的性格を説明できる。
		10週	啓蒙思想と百科全書派（2）	啓蒙思想と、欧米列強の帝国主義的世界進出との関わりについて説明できる。
		11週	啓蒙思想と百科全書派（3）	啓蒙思想の代表例として、フランスの百科全書派について説明できる。
		12週	ルソー（1）	百科全書派の主流とルソーの考え方の違いについて説明できる。
		13週	ルソー（2）	ルソーの人民主権と議会制度への疑念について説明できる。
		14週	ルソー（3）	ルソーの思想とフランス革命との関係について説明できる。
		15週	期末試験	これまでの授業内容を理解し、試験問題に対して適切な解答ができる。
		16週	試験返却・解答	試験結果と照らし合わせて、これまでの復習をおこなう。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	法学

科目基礎情報

科目番号	0044	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教育	対象学年	4
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	池田真朗編『プレステップ法学第2版』（2013年・弘文堂）		
担当教員			

到達目標

・社会には様々な人々がいて、それぞれｇア違った考え方を持つことを理解すると共に、誰にでも言い分があるということを意識して、きちんとそれに耳を傾ける態度を養う。
・法律学の基本概念を習得する。
・法的思考方法を身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
法律学の基本概念について十分な知識がある。	法律学の基本概念について説明できる。	法律学の基本概念について理解し、中間試験・定期試験において合格点を取ることができる。	法律学の基本概念を理解できていない。
法的思考方法が身についている。	法的思考方法を習得し、様々な法的問題について自身の考えを論理的に表現できる。	法的問題について自身の考えを持っている。	法的問題について考えようとしていない。
評価項目3			

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	社会人として、一市民として必要な法的素養について学ぶ。
授業の進め方・方法	基本的には講義形式で行うが、回によっては、グループワークや、個人での口頭発表などを取り入れる場合がありうる。学生の積極的な参加を期待する。
注意点	・成績評価については、以下のとおりであるが、学年末の成績が60点未満の者について、別途課題等を与えるなどしたうえで、学習の成果が見られた場合は、単位取得を考えることがある。 ・高専4年生＝大学1年生である。高校から大学へ進む者のように、学校が変わるわけではないが、3年生までの延長のような気分では困る。高等教育機関の「学生」として振る舞うこと。 ・自分の頭で考えぬくこと。 ・友人と議論するなどして様々な考えに触れること。 他者の意見にきちんと耳を傾けること。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	この授業の到達目標、履修上の注意点、評価方法などについて把握する。 法の存在意義について説明できる。
		2週	日常生活と契約①	近代民法の基本原則、契約の成立時期、債権・債務などといった基本的な概念について説明できる。
		3週	日常生活と契約②	債務不履行の諸類型について説明できる。
		4週	不法行為	不法行為責任について説明できる。
		5週	消費者と法	消費者として法的問題に直面した場合の解決策を習得する。
		6週	家族と法①	婚姻をめぐる基本的な制度の概要について説明できる。
		7週	前半のまとめ	これまでの学習事項を習得している。
		8週	中間試験	合格点をとる。
	2ndQ	9週	答案返却・家族と法②	相続をめぐる基本的な制度の概要について説明できる。
		10週	犯罪と刑罰①	グループワークに参加し、自身の考えをきちんと述べることができる。
		11週	犯罪と刑罰②	罪刑法定主義や刑罰の意義について説明できる。
		12週	労働と法①	労働法の意義や採用内定の法的性質について説明できる。
		13週	労働と法②	労働法の基本的制度の概要について説明できる。
		14週	生命倫理と法	現代社会における生命倫理の問題について法学的にどうアプローチできるか学ぶ。
		15週	定期試験	合格点をとる。
		16週	答案返却	試験の結果を踏まえ、自身の取り組みを振り返る。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	小テスト	レポート	合計
総合評価割合	60	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経済学

科目基礎情報

科目番号	0045	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	一般教育	対象学年	4
開設期	後期	週時間数	2
教科書/教材	八田幸二ほか『攻略!!日本経済改訂版』（2015・学文社）。参考書として、3年次に使用した現代社会の教科書（数研出版『高等学校現代社会』）も持参すると良い。		
担当教員			

到達目標

・現代社会における経済に関わる諸問題に関心を持ち、それに対する自身の考えを的確かつ論理的に表現できる。
・経済学の基本的な概念やメカニズムについて説明できる。
・経済学的な思考方法を身につける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
現代社会における経済に関わる諸問題に関心を持ち、それに対する自身の考えを的確かつ論理的に表現できる。	現代社会における経済に関わる諸問題について、自身の考えを論理的に記述できる。	現代社会における経済に関わる諸問題について、自身の考えを持っている。	現代社会における経済に関わる諸問題について考えようとしていない。
経済学の基本的な概念やメカニズムについて説明できる。	経済学の基本的な概念やメカニズムについて説明できる。	経済学の基本的な概念やメカニズムについて理解している。	経済学の基本的な概念やメカニズムについて理解していない。
経済学的な思考方法を身につける。	経済学的な思考方法を用いて、現代社会における経済の問題について考察できる。	経済学的な思考方法が身についている。	経済学的な思考方法が身についていない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	経済学の基本的な事項について学ぶことで、社会における経済的問題について考えるための視座や思考力を身につけることを目指す。
授業の進め方・方法	基本的には講義形式で行うが、回によっては、問題演習、グループワークや、個人での口頭発表などを取り入れる場合がありうる。学生の積極的な参加を期待する。
注意点	・成績評価については、以下のとおりであるが、学年末の成績が60点未満の者について、別途課題等を与えるなどしたうえで、学習の成果が見られた場合は、単位取得を考えることがある。 ・高専4年生＝大学1年生である。高校から大学へ進む者のように、学校が変わるわけではないが、3年生までの延長のような気分では困る。高等教育機関の「学生」として振る舞うこと。 ・問題演習等の課題には自力で取り組むこと。自分の頭で考えぬくこと。 ・経済のメカニズムを（暗記ではなく）自分の頭で理屈を追いながら、「理解」すること。他人に分かるように説明できるようになることが、本当の意味での「理解」である。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション	この授業の到達目標、履修上の注意点、評価方法などについて把握する。
		2週	経済主体	経済の定義、経済活動が3つの主体により行われていること、企業の役割について把握する。
		3週	資本主義の確立と経済学の展開①	資本主義とはどのような概念か、社会主義と比較しながら説明できる。 これまでの経済学の歴史の概要を説明できる。
		4週	資本主義の確立と経済学の展開②	資本主義とはどのような概念か、社会主義と比較しながら説明できる。 これまでの経済学の歴史の概要を説明できる。
		5週	市場経済①	完全競争市場における価格メカニズムについて説明できる。
		6週	市場経済②	完全競争市場における価格メカニズムについて理解し、演習問題を解くことができる。
		7週	前半のまとめ	これまでの学習事項を習得している。
		8週	中間試験	合格点をとる。
	4thQ	9週	答案返却 市場の限界	市場経済のがうまくいかない場合にはどのような場合があるか把握する。
		10週	財政	財政政策のメカニズムを説明できる。
		11週	金融	金融政策のメカニズムを説明できる。
		12週	外国為替相場のしくみ	円高・円安になる要因や、なった場合の影響について、理屈立てて理解する。
		13週	貿易	比較生産費説について理解し、演習問題を解ける。
		14週	後半のまとめ	これまでの学習事項を習得している。
		15週	定期試験	合格点をとる。
		16週	答案返却	試験の結果を踏まえ、自身の取り組みを振り返る。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	小テスト	合計
総合評価割合	60	0	0	0	0	20	20	100
基礎的能力	60	0	0	0	0	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健･体育

科目基礎情報

科目番号	0046	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	一般教育	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材			
担当教員			

到達目標

1.日常的に自己の体調管理を行い、授業を受けるために必要なコンディションを維持することができる。また、担当教員や仲間と協力し、主体的かつ安全に活動を実行できる。
2.体力テスト及びマラソン大会の記録や順位により、自己の体力水準と課題を認識し、体力の維持増進を図れる。また、各種のスポーツを仲間と協力して実行し、生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢を身につけることができる。
3.自己の特徴を理解し、体力増進を図るプログラムを作成できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	欠席、遅刻、早退および見学がほとんどなく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。	欠席、遅刻、早退および見学が少なく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。	欠席、遅刻、早退および見学が多い。または、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられる。
評価項目2	体力テスト及びマラソン大会において高いレベルの記録を出すことができる。各種のスポーツのゲームを楽しみながらも、仲間と協力して勝利を目指し実施できる。	体力テスト及びマラソン大会の記録や順位がやや低くても、改善しようとする姿勢がみられる。各種のスポーツのゲームを、仲間と協力して楽しく実施できる。	体力テスト及びマラソン大会の記録や順位が著しく低く、改善しようとする姿勢がみられない。または、各種のスポーツのゲームを主体的に仲間と協力して実施できない。
評価項目3	レポートの課題の意図を理解でき、実生活での体力増進につながる内容に仕上げることができる。	レポートの所定の字数を満たし、文章の体裁が整っている。課題の意図を理解できる。	レポートの誤字脱字が多い等、文章の体裁が整っていない。所定の字数を満たしていない。課題の意図を理解できていない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	体育実技を行うとともに、授業外の自学自習によるレポートを課す。 体育実技は、基礎体力の維持増進を図るとともに、仲間と協力して各種のスポーツのゲームや記録測定を行う。 レポートは、自己の現状分析と、それを元にした運動プログラム作成を課す。
授業の進め方・方法	体育実技は、主にグランドや体育館にて行う。準備運動に続いて、その日の主要課題を行う。
注意点	･評価の50%は態度(出席状況及び授業態度)である。日常的に体調管理をしっかり行い、良い身体コンディションで授業に臨むこと。また、真面目に取り組むこと。 ･授業計画や評価方法は、天候等の事情により変更することがありうる。 ･実技の授業時には、運動に適した服装･シューズ及び着替えを準備すること。 ･安全面に注意するとともに、体調不良時には、早めに担当教員に申し出ること。 ･日常的に規則正しい生活を心がけ、健康状態の維持及び体力の維持増進を図っておくこと。また、体育･スポーツ分野及び保健衛生分野に関する時事問題に関心を持ち、それらについて自分なりの考えを持っておくこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	体力テスト(屋外種目)	昨年度の記録を上回る。
		2週		
		3週	体力テスト(屋内種目)	昨年度の記録を上回る。
		4週		
		5週	体力テスト(屋外種目)、球技、walkingから選択	前回の記録を上回る。
		6週		
		7週	体力テスト(屋内種目)又は球技を選択	前回の記録を上回る。
		8週		
	2ndQ	9週	球技（数種目から選択）、レポート課題説明	レポート作成時のポイントを説明できる。
		10週		
		11週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		12週		
		13週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		14週		
		15週	前期総括	前期の反省点を確認し、後期に生かすイメージを持てる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		2週		
		3週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		4週		
		5週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。

		6週		
		7週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		8週		
	4thQ	9週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		10週		
		11週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		12週		
		13週	球技（数種目から選択）、レポート課題説明	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		14週		
		15週	総括	次年度の自己の健康及び体力増進をイメージできる。
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	50	5	45	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	50	5	45	100

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語（4年）

科目基礎情報

科目番号	0042	科目区分	専門 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	一般教育	対象学年	4
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材	特に使用しない。プリントで対応する。		
担当教員	豊田 尚子		

到達目標

1．社会人として通用する語彙能力の運用を目指し、実用的な分野を中心に学習する。
２．本科で国語を学習する最後の機会である。文化的な知見を深め、発想力、発信力を高めるために、様々な題材に対して実践的に取り組む。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	課題の目的や意図を理解し、題材に対して正確に、丁寧に、仕上げることができる。	対象とする題材に、正しく仕上げる努力を認めることができる。	対象とする題材に、目的や意図を理解せず、正しく仕上げることができない。
評価項目2	敬語や対外的な文章用語を正しく覚え、運用できる。	敬語や対外的な文章用語について正誤の判断ができる。	敬語や対外的な文章用語を正しく覚えない。
評価項目3	簡潔で、筋道の通った説明文を作ることができる。	説明文を作成できる。	説明文を作成することができない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	この学年は、本科で国語を学習できる、最後の機会である。したがって、実用的に運用できることを優先して講義を行うことにしている。その意図を理解して授業に臨み、題材に真摯に取り組むことを求めている。
授業の進め方・方法	授業時に、プリント形式で国語常識問題に取り組むことがある。これは、提出物でも小テストでもないが、定期試験の範囲となるので、授業はきちんと取り組むこと。
注意点	１．達成度の評価方法にある、「その他」とは、提出物のことを示している。前期・後期にそれぞれ提出物がある。評価の半分を占めるため、提出は必須となる。 ２．提出物は、余裕をもって締め切りを設定している。講義中に提出に関する諸注意も説明する。勝手な判断で、提出の目的や意図から外れるものを出されても、評価に大きく関わる。授業はきちんと聞くこと。 ３．提出物・試験ともに、正しい字形で表記することを求める。認められない字形、減点対象となる字形、誤りやすい字体は、その理由とともに、授業で提示する。気を付けること。 ４．自分の筆圧にあった筆記具を用意しておくことが望ましい。水性またはゲルインクのペンを推奨する。万年筆でもいいが、使い慣れたひと以外は不向きである。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス	提出物の取り組みに関する説明を聞く
		2週	履歴書の書き方・1	一般的な履歴書の書き方を学び、下書きを提出する。
		3週	履歴書の書き方・2	履歴書の種類、エントリーシートの種類と書き方を知る。
		4週	履歴書の書き方・3	下書きを返却し、注意事項を再確認する。
		5週	履歴書の書き方・4	履歴書の清書の準備をする。
		6週	敬語の使い方・1	敬語の種類と基本事項を確認する。
		7週	敬語の使い方・2	敬語の練習問題に取り組む。
		8週	前期中間試験	問題の指示に従って、正しい解答を作成する。
	2ndQ	9週	試験の解答解説	試験問題について、正しい解答の導き方を確認する。
		10週	敬語の使い方・3	敬語の練習問題に取り組む。
		11週	敬語の使い方・4	敬語の練習問題に取り組む。
		12週	敬語の使い方・5	待遇表現の練習をする。
		13週	敬語の使い方・6	間違えやすい敬語の使い方を確認する。
		14週	敬語の使い方・7	間違えやすい敬語の使い方を確認する。
		15週	前期定期試験	問題の指示に従って、正しい解答を作成する。
		16週	試験の解答解説	試験問題について、正しい解答の導き方を確認する。
後期	3rdQ	1週	手紙の書き方・1	手紙の基本構成を学ぶ。
		2週	手紙の書き方・2	手紙特有の用語、その使い方を学ぶ。
		3週	手紙の書き方・3	紙面の使い方を練習する。
		4週	手紙の書き方・4	手紙に関する基本的な練習問題に取り組む。
		5週	手紙の書き方・5	手紙に関する基本的な練習問題に取り組む。
		6週	手紙の書き方・6	後付けの書き方の練習をする。
		7週	手紙の書き方・7	指示に従って、具体的な書き方の練習をする。
		8週	後期中間試験	問題の指示に従って、正しい解答を作成する。
	4thQ	9週	試験の解答解説	試験問題について、正しい解答の導き方を確認する。
		10週	説明文の書き方・1	扱う題材から、説明文作成の目的を確認する。 題材に関する予備知識を学ぶ。
		11週	説明文の書き方・2	題材を解読し、説明文を作成する。
		12週	説明文の書き方・3	題材を解読し、説明文を作成する。
		13週	説明文の書き方・4	題材を解読し、説明文を作成する。
		14週	説明文の書き方・5	題材を解読し、説明文を作成する。

		15週	後期定期試験	問題の指示に従って、正しい解答を作成する。
		16週	試験の解答解説	試験問題について、正しい解答の導き方を確認する。

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0
基礎的能力	５０	0	0	0	0	５０	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0

モデルコア高専5	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健･体育

科目基礎情報

科目番号	0041	科目区分	一般 / 必修
授業形態	授業	単位の種別と単位数	学修単位: 1
開設学科	一般教育	対象学年	5
開設期	通年	週時間数	0.5
教科書/教材			
担当教員			

到達目標

1.日常的に自己の体調管理を行い、授業を受けるために必要なコンディションを維持することができる。また、担当教員や仲間と協力し、主体的かつ安全に活動を実行できる。
2.体力テスト及びマラソン大会の記録や順位により、自己の体力水準と課題を認識し、体力の維持増進を図れる。また、各種のスポーツを仲間と協力して実行し、生涯にわたってスポーツを楽しむ姿勢を身につけることができる。
3.自己の特徴を理解し、体力増進を図るプログラムを作成できる。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	欠席、遅刻、早退および見学がほとんどなく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない	欠席、遅刻、早退および見学が少なく、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられない。	欠席、遅刻、早退および見学が多い。または、授業を安全かつ円滑に進める上での問題行動がみられる。
評価項目2	体力テスト及びマラソン大会において高いレベルの記録を出すことができる。各種のスポーツのゲームを楽しみながらも、仲間と協力して勝利を目指し実施できる。	体力テスト及びマラソン大会の記録や順位がやや低くても、改善しようとする姿勢がみられる。各種のスポーツのゲームを、仲間と協力して楽しく実施できる。	体力テスト及びマラソン大会の記録や順位が著しく低く、改善しようとする姿勢がみられない。または、各種のスポーツのゲームを主体的に仲間と協力して実施できない。
評価項目3	レポートの課題の意図を理解でき、実生活での体力増進につながる内容に仕上げることができる。	レポートの所定の字数を満たし、文章の体裁が整っている。課題の意図を理解できる。	レポートの誤字脱字が多い等、文章の体裁が整っていない。所定の字数を満たしていない。課題の意図を理解できていない。

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	体育実技を行うとともに、授業外の自学自習によるレポートを課す。 体育実技は、基礎体力の維持増進を図るとともに、仲間と協力して各種のスポーツのゲームや記録測定を行う。 レポートは、自己の現状分析と、それを元にした運動プログラム作成を課す。
授業の進め方・方法	体育実技は、主にグランドや体育館にて行う。準備運動に続いて、その日の主要課題を行う。
注意点	･評価の50%は態度(出席状況及び授業態度)である。日常的に体調管理をしっかり行い、良い身体コンディションで授業に臨むこと。また、真面目に取り組むこと。 ･授業計画や評価方法は、天候等の事情により変更することがありうる。 ･実技の授業時には、運動に適した服装･シューズ及び着替えを準備すること。 ･安全面に注意するとともに、体調不良時には、早めに担当教員に申し出ること。 ･日常的に規則正しい生活を心がけ、健康状態の維持及び体力の維持増進を図っておくこと。また、体育･スポーツ分野及び保健衛生分野に関する時事問題に関心を持ち、それらについて自分なりの考えを持っておくこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	体力テスト(屋外種目)	昨年度の記録を上回る。
		2週		
		3週	体力テスト(屋内種目)	昨年度の記録を上回る。
		4週		
		5週	体力テスト(屋外種目)、球技、walkingから選択	前回の記録を上回る。
		6週		
		7週	体力テスト(屋内種目)又は球技を選択	前回の記録を上回る。
		8週		
	2ndQ	9週	球技（数種目から選択）、レポート課題説明	レポート作成のポイントを説明できる。
		10週		
		11週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		12週		
		13週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		14週		
		15週	前期総括	前期の反省点を確認し、後期に生かすイメージを持てる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		2週		
		3週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		4週		
		5週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。

		6週		
		7週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		8週		
	4thQ	9週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		10週		
		11週	球技（数種目から選択）	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		12週		
		13週	球技（数種目から選択）、レポート課題説明	仲間と協力してゲームの運営を行い、楽しむことができる。
		14週		
		15週	総括	卒業後の自己の健康及び体力増進をイメージできる
		16週		

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	50	5	45	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	50	5	45	100